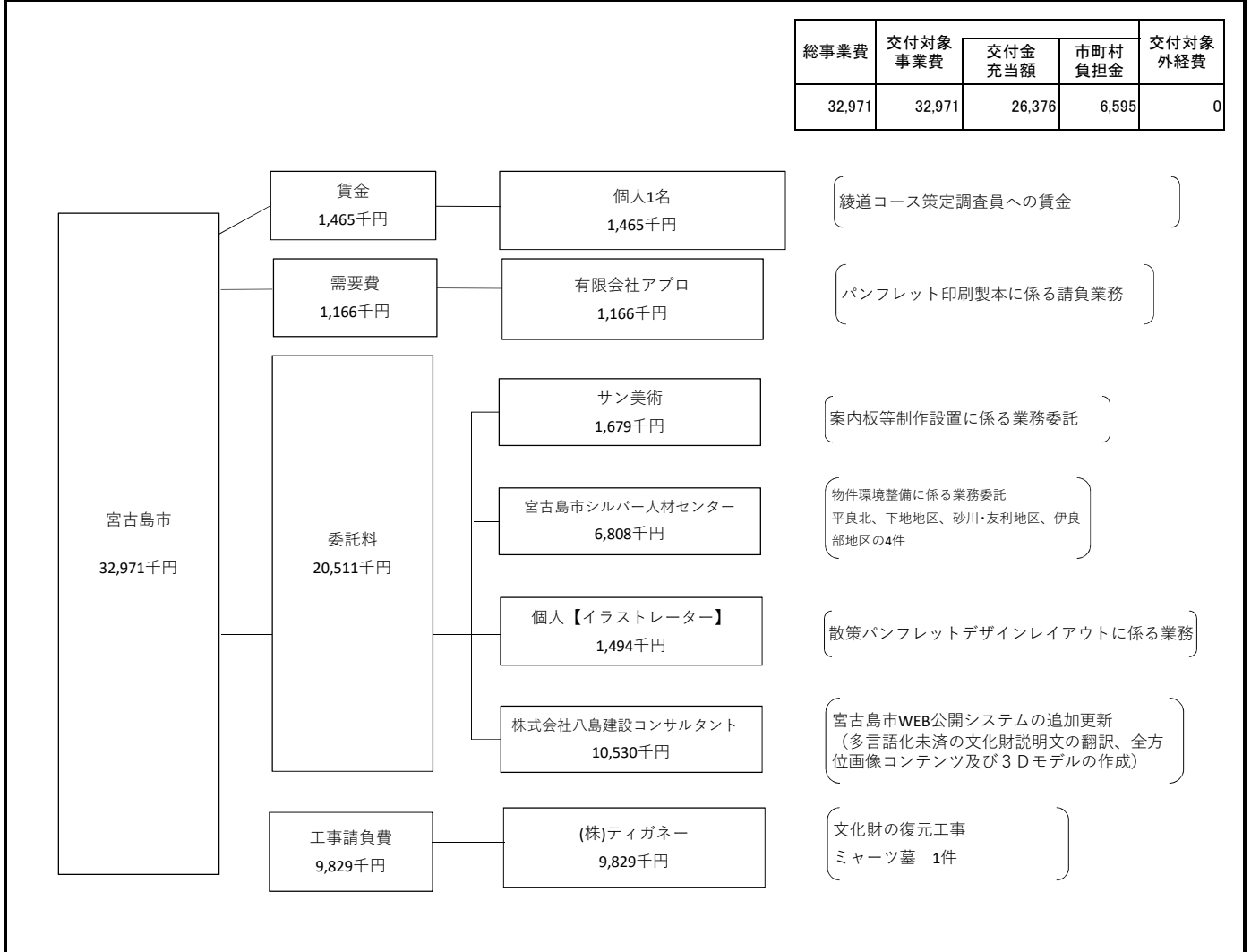


市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	宮古島市neo歴史文化ロード整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-(ア) 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	
担当部署名	生涯学習部 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)	
事業内容	現在、6コース展開しているNEO歴史文化ロード「綾道(あやんつ)」を拠点とし、平成29年度は平良南・久松地区に所在する「宮古島らしさ」に特化した文化財を中心とする散策コース等の整備を行い、伝説と民話に彩られたロマン溢れる「宮古島特異の歴史と文化」を巡る新たな観光資源の一つとして広く活用する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	29,450	78,500	23,498	30,751	34,699
		(b) 予算現額	72,742	78,500	26,078	30,751	34,699
		(c) 増減額(b-a)	43,292	0	2,580	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	72,742	78,500	26,078	30,751	34,699
	B. 執行済額		72,735	78,487	25,502	30,419	32,971
	うち交付金充当額		58,188	62,789	20,401	24,335	26,376
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	97.8%	98.9%	95.0%
予算の状況の説明		不用額1,728千円については工事請負の入札残や臨時職員4月分の賃金の減などによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	・新規コース「綾道～平良南・久松コース～」の策定/1コース	目標	(1コース)	()	()	()	
		実績	1コース				
	・宮古島市文化財WEB公開システム追加更新/1コース分	目標	(1コース分)	()	()	()	
		実績	1コース分				
	・コースマップパンフレットデザイン及び印刷製本/12,000部	目標	(12,000部)	()	()	()	
		実績	12,000部				
	・案内板・標柱等の設置/10箇所	目標	(10箇所)	()	()	()	
		実績	10箇所				
・毀損物件の復元等(ミヤーツ墓 1物件)	目標	(1物件)	()	()	()		
	実績	1物件					
達成状況説明	・新規コース(平良南・松原/久貝コース)の策定。 ・宮古島市文化財WEB公開システム追加更新については、平良南/松原/久貝コースの追加、検索機能の追加、全方位画像コンテンツ等の追加更新を行った。 ・散策パンフレットについては、平良南/松原/久貝コースを12,000部作成した。 ・案内板の設置については、案内板10基を設置完了した。 ・毀損物件の復元等について、ミヤーツ墓の復元を行った。						

H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (30年度)
・新規コース「綾道～平良南・久松コース～」策定完了／1コース	目標	()	(1コース)	()	()	()
	実績		1コース			
・文化財WEB公開システム閲覧数(5,000アクセス/年)	目標	()	(5,000アクセス)	()	()	()
	実績		12,878アクセス			
・案内板・標柱等の設置完了	目標	()	(10基)	()	()	()
	実績		10基			
・パンフレットの作成配布完了	目標	()	(作成配布)	()	()	()
	実績		作成配布			
・毀損物件の復元完了／1物件	目標	()	(復元完了)	()	()	()
	実績		復元完了			
【H30成果目標】 入域観光客数710,000人以上	目標					710,000人
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・新規コース(平良南・松原／久貝コース)の策定。 ・文化財WEB公開システム閲覧数については、アクセスが12,878件あり、目標の5,000件を達成しており追加更新業務の効果が現れている。 ・案内板の設置については、説明板の未設置の文化財3物件に説明板を3基設置し、既存及び新規コース上に、散策コース案内板を7基設置しており、散策コースの説明に必要な基数は確保できたため目標は達せられている。 ・散策パンフレットについては、平良南／松原・久貝コースを12000部作成し、配布を行った。 ・毀損物件の復元等について、ミヤーツ墓の1物件を復元することにより、供用可能な状態となった。 					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	環境整備除草清掃作業において、砂川・友利コースの清掃が年4回で実施していたが、夏場は下草の成長が早く環境整備が行き届いていなかったため、観光客からも指摘されている。	環境整備除草清掃作業を年5回(夏場3回・冬場2回)に変更することで、砂川・友利コースの夏場の清掃回数を増やす必要がある。
今後の取り組み方針		
砂川・友利コースの清掃を年5回(夏場3回・冬場2回)に変更する。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託・請負事業者は、文化財の特性上、業務には高度な専門性・技術が求められることを鑑みて、市内文化財の測量成果を有しかつGIS技術で独自のシステムを所有するコンサルタント業者、説明板等はUVカットシート圧接特殊加工技術を有する製作者等を選定しており、地方自治法施行令167条の2第2項に該当し適正であったと考えている。デザインイラスト作成については平成24年～平成29年度の当該業務を請け負っており、シリーズの最終的なイラストの統一性の観点から選定しており、適正であったと考えている。また、環境整備業務は宮古島市シルバー人材センターに委託しており、適正であったと考えている。 ○予算規模について、特殊業務は事前に見積書を徴取するなどしており適正であるとされている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

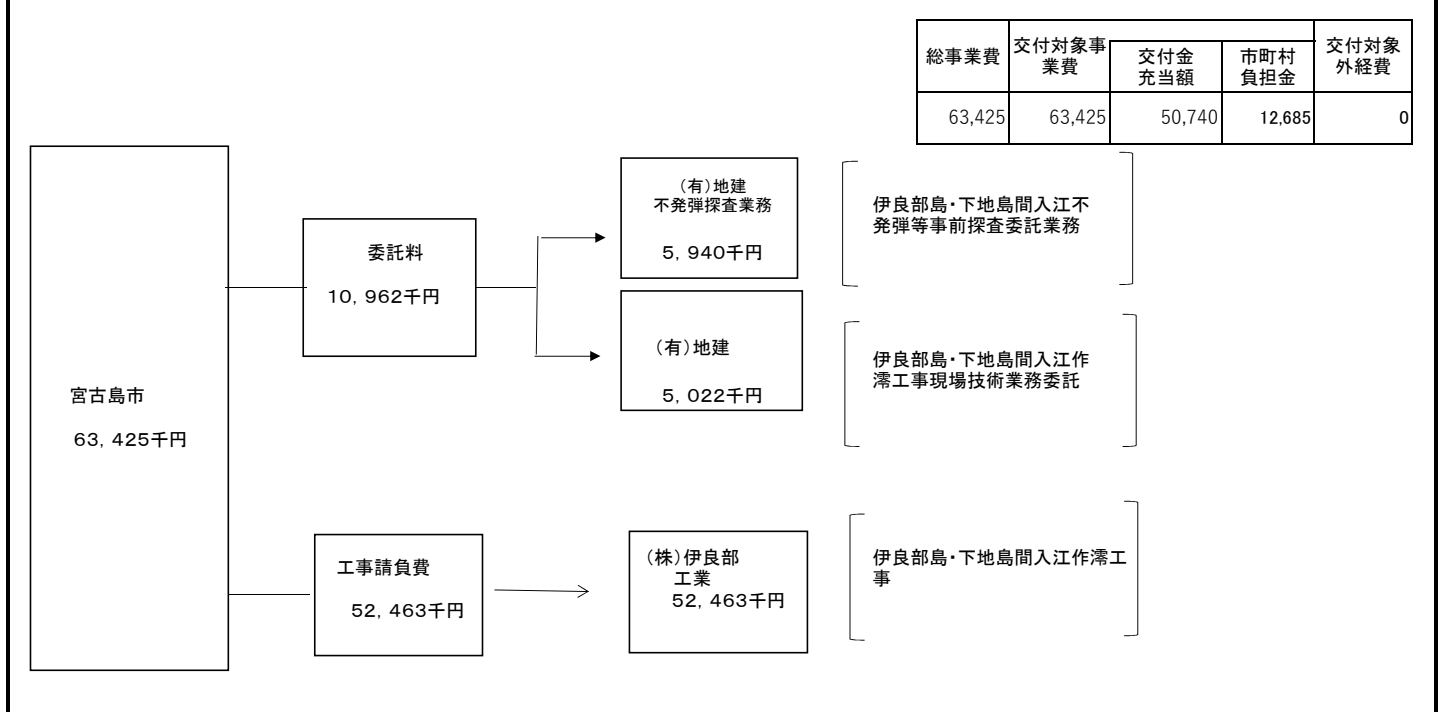
市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	伊良部島・下地島間入江整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部署名	伊良部支所 地域づくり課	事業実施(予定)年度	平成24~30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	伊良部島・下地島間入江を海洋レジャーに要する観光資源として最大限に活用するため、周辺水域の作滞を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,750	50,000	-	5,000	68,420
		(b) 予算現額	25,620	50,000	-	5,000	68,420
		(c) 増減額(b-a)	19,870	0	-	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	25,620	50,000	-	5,000	68,420
	B. 執行済額		25,095	43,401	-	3,024	63,425
	うち交付金充当額		20,076	34,720	-	2,419	50,740
	次年度繰越額		0	0	-	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.0%	86.8%	-	60.5%	92.7%
予算の状況の説明		不用額4,995千円は、委託業務及び作滞工事の入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	水路作滞	目標	(完了)	()	()	()	
		実績	完了				
	施工管理	目標	(完了)				
		実績	完了				
	工事設計	目標	(完了)	()	()	()	
		実績	完了				
	達成状況説明	年度工期内に工事、委託業務の成果品は納品されており、工事、委託業務は適切に執行された。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値	29年度	30年度	31年度
水路作滞		目標	()	(完了)		()	()
		実績		完了			
施工管理		目標	()	(完了)			
		実績		完了			
工事設計		目標	()	(完了)		()	()
		実績		完了			
進捗状況説明		伊良部島・下地島間入江作滞工事の不発弾等時前探査業務を完了した。また伊良部島・下地島間入江作滞工事を行い、工事を完了した。工事と同時に現場技術業務も完了している。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	作滞予定箇所付近でマングロープカニの養殖を行っている事業者があるため、観光面の推進だけでなく、養殖事業を守る観点から、事業者とも協議を行い、調整の結果を工事に反映させることが求められた。	養殖事業者との調整を行い、養殖実施箇所を避けた設計を基に、作滞工事を施工し完了しているが、観光業・養殖業にも影響がないような工事や調整を図る必要がある。

今後の取り組み方針

伊良部島・下地島間入江作滞工事実施設計書に基づき、工事を進めていき、近隣養殖事業者や、観光事業者等の関係各所と適宜調整を図る。今後も汚濁防止等の取組も行いながら、近隣に影響のないように工事を実施していく。また今後は、SUPやシーカヤック等、作滞ヶ所を利用した観光の推進を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 千円)



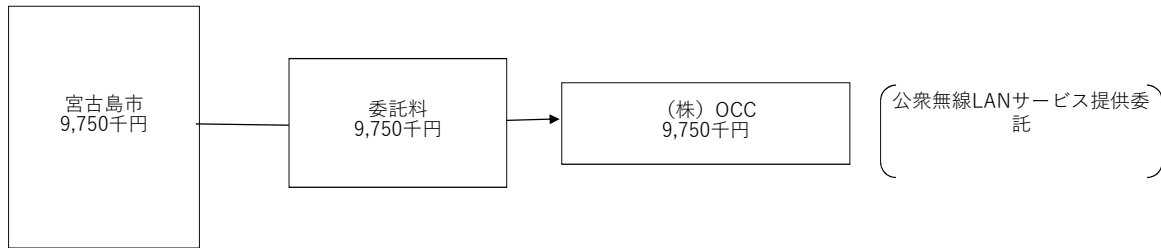
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事について指名競争入札を実施し、支出先としては妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算は適正に執行されたが、入札残が生じた。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途に関しては、事業目的達成の観点で完了検査を行った結果、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	観光地受入環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(オ)	
担当部署名	観光商工部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成28~30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	産業間連携の強化		
事業内容	年々増加する観光客(外国人観光客を含む)の利便性と満足度の向上を図るため、公衆wi-fiを整備する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	35,986	10,000			
		(b)予算現額	21,190	10,000			
		(c)増減額(b-a)	▲14,796	0			
		(d)繰越額	0	-			
		A. 計(b+d)	21,190	10,000			
		B. 執行済額	21,190	9,750			
		うち交付金充当額	16,951	7,800			
		次年度繰越額	0	0			
		執行率(%) (B/A)	100.0%	97.5%			
予算の状況の説明	当初計画していた事業を全て執行した。不要額の250千円は委託料における受託事業者の価格提示によるもの。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	公衆Wi-Fiの整備	目標	(Wi-Fiの整備)	(Wi-Fiの整備)	()	()	
		実績	Wi-Fiの整備	Wi-Fiの整備			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	JTAドーム及び、中心市街地から徒歩圏内であり、クルーズ船受入拠点であるマリンターミナルからも近いパイナガマビーチに整備を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	公衆Wi-Fiの整備完了	目標	()	(フリーWi-Fiスポットの設置完了)	(公衆Wi-Fiの整備完了)	()	()
		実績		フリーWi-Fiスポットの設置完了	公衆Wi-Fiの整備完了		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	JTAドームとパイナガマビーチにフリーWi-Fiスポット整備を完了しており、目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>今後は、下地島空港ターミナルの開設や国際クルーズ拠点としての平良港の整備による観光客の増加によりWi-Fiに対するニーズがより高くなることが予測される。一方、国内外の国際線ターミナルでは外国人観光客の為にSIMカードの販売やWi-Fiルーターの貸し出しが行われおり、外国人観光客が通信手段を確保する方法は、年々変化している。</p>	<p>通信技術の動向や下地島空港ターミナルの開設や国際クルーズ拠点としての平良港の整備による観光客の導線やニーズの変化等を総合的に判断し、Wi-Fiの整備計画を検討していく必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>今後は、通信技術の動向や下地島空港ターミナルの開設や国際クルーズ拠点としての平良港の整備による観光客の導線やニーズの変化等を総合的に判断し、Wi-Fiの整備計画を検討していく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,750	9,750	7,800	1,950	0



資金の流 れ、費 用・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者はプロポーザルにより選定しており妥当であったと考えている。 ○不要額もほとんど出でならず、予算規模は適正であった。 ○費用・使途については、事業完了後に検査を行った結果適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宮古島市					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	ムイガー展望施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア	
担当部署名	生活環境部 城辺支所	事業実施(予定)年度	平成29~30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり		
事業内容	宮古島南部の断崖を一望できる景勝地のムイガー断崖について、観光資源として活用するため、展望施設の整備に向けた実施設計を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(31年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,003				
		(b) 予算現額	3,589				
		(c) 増減額 (b-a)	586				
		(d) 繰越額	-				
		A. 計 (b+d)	3,589				
	B. 執行済額		3,352				
	うち交付金充当額		2,681				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		93.4%				
予算の状況の説明		軽微な変更として住民から要望のあった休憩所(東屋)設置を追加し、平成29年12月補正で設計委託業務の予算を586千円増額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	ムイガー展望施設実施設計の完了	目標	(完了)	()	()	()	
		実績	完了				
	保安林解除の手続きの完了	目標	(完了)	()	()	()	
		実績	完了				
達成状況説明	住民から要望のあった休憩所(東屋)設置の設計も追加し、設計業務及び保安林解除手続きを完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
	ムイガー展望施設実施設計	目標	()	(完了)	()	()	()
		実績		完了			
	保安林解除の手続きの完了	目標	()	(完了)	()	()	()
		実績		完了			
	【H30成果目標】 観光客等を対象に、観光地としての魅力利便性の向上が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標				80%
進捗状況説明	住民から要望のあった休憩所(東屋)設置の設計も追加し、設計業務及び保安林解除手続きを完了した。						

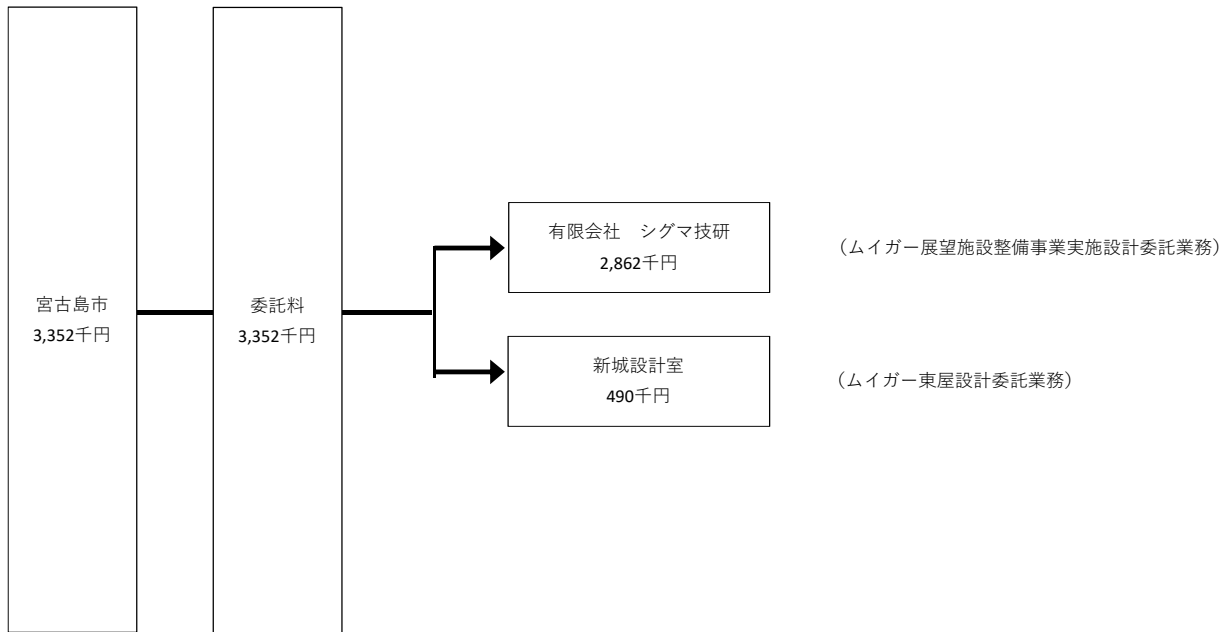
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	住民説明会の際に、交流スペースとしても活用できる休憩所(東屋)設置の要望が多数あった。	休憩所(東屋)の設計を追加した。

今後の取り組み方針

工事について課題が出てきた際は、事業の目的を達成できるよう適切に対応していく。また、住民との調整が必要な課題が出てきた場合は、説明会やヒアリングを実施し調整を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,352	3,352	2,681	671	0



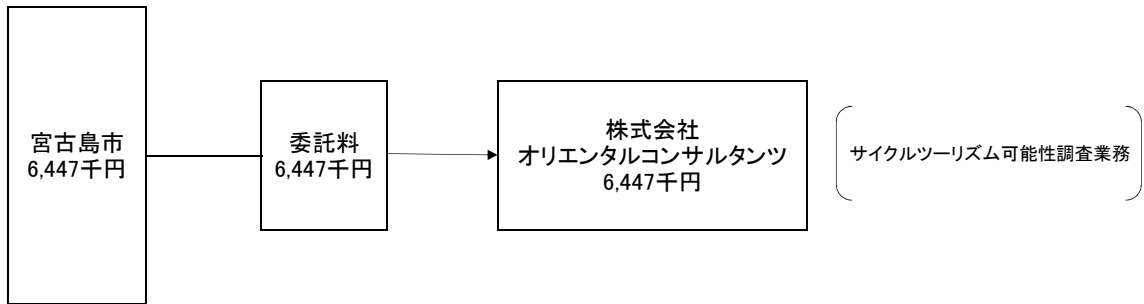
資金の流 れの点 検評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ムイガー展望施設整備事業実施設計委託業務については、市の規則に基づき指名競争入札で業者選定しており妥当である。ムイガー東屋設計委託業務については、市の規則に基づき見積による随意契約を締結した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は積算システムにより算出されたもので適正だと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途は設計委託業務のためであり適正である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	宮古島サイクルツーリズム推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部署名	観光商工部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成29~31年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	自転車を利用した観光であるサイクルツーリズムの推進の取り組みとして、その経済効果・観光産業に及ぼす影響、取組みの諸条件を整理するための可能性調査を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,282				
		(b)予算現額	6,632				
		(c)増減額(b-a)	1,350				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	6,632				
	B.執行済額		6,447				
	うち交付金充当額		5,158				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		97.2%				
予算の状況の説明		急増するインバウンド観光客への可能性も検討するため、当初予算策定時の仕様書に国外の需要調査も加えたので、1,350千円流用し予算増額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	宮古島サイクルツーリズム可能性調査業務の実施	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・更なる観光振興を図り、サイクルツーリズムの推進に向けた可能性を把握するため、業務委託により可能性調査を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	宮古島市サイクルツーリズム可能性調査業務の完了	目標	()	(完了)	()	()	()
		実績		完了			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・専門家へのヒアリングや先行事例の収集、観光客へのアンケート調査などを実施し、経済効果や経費について推計した結果をもとに、今後の課題を整理した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・需要調査の結果、宮古島のロケーションの魅力もあり、サイクルツーリズムは一定の需要があることが確認できた。また、二次交通の不足しがちなクルーズ船客の受入において、交通手段として利用できる可能性があることが分かった。</p>	<p>・サイクルツーリズムとして推進していくには、モデルコースの設定やブルーライン(誘導路面標示)の整備だけではなく、サイクルステーション(レンタサイクル)や休憩所の設置など、総合的に受入環境を整備する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・サイクルツーリズムがもたらす経済効果を十分に引き出すためには、総合的な環境整備が必要となる。今後は地域や民間と連携した検討委員会を開催し、サイクルツーリズムの推進に向け取り組んでいく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
6,447	6,447	5,158	1,289	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 △予算規模については、事業内容を追加増額となったため、今後は計画段階での精度向上が必要となる。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市
------	------

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑧	与那覇湾環境総合整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-イ
担当部署名	生活環境部 環境衛生課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	陸域・水辺環境の保全
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容
ラムサール条約に登録された与那覇湾の貴重な自然環境の有効利用を図るため、平成26年に策定した整備計画を基に、遊歩道及び駐車場の整備工事を行う。

効果発現年度
当年度 後年度(年度)

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他()

		26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	49,489	-	25,000	31,120	33,475
	(b) 予算現額	47,354	-	24,102	17,048	43,192
	(c) 増減額(b-a)	▲ 2,135	-	▲ 898	▲ 14,072	9,717
	(d) 繰越額	-	38,340	-	-	-
	A. 計(b+d)	47,354	38,340	24,102	17,048	43,192
	B. 執行済額	8,423	38,340	22,937	15,730	36,109
	うち交付金充当額	6,738	30,672	18,349	12,584	28,887
	次年度繰越額	38,340	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	17.8%	100.0%	95.2%	92.3%	83.6%
予算の状況の説明	工事設計額の諸経費率に誤りがあり、修正した結果予算現額が9,717千円増となった。予算残については、入札残4,426千円及び予定していた木道及び野鳥観察施設設計委託業務について、木道設置予定地にマングローブ林が繁茂している状況を踏まえ、木道及び野鳥観察施設の設置について再検討する事とし、設計委託を行わなかった残2,657千円である。					

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度
		遊歩道工事の実施	目標	(28m)	(590m)	
	実績	28m	442m			
	目標	()	()			
	実績					
達成状況説明	与那覇湾西浜崎内の遊歩道及び駐車場について、車椅子利用者等の利用ができるよう遊歩道442及び駐車場635㎡の整備を行った。遊歩道整備目標590.72mのうち148.72mは現状の遊歩道を利用する事とした。予定していた木道設計委託については、木道設置予定箇所にマングローブ林が繁茂するなど、与那覇湾内の環境変化に伴い再検討する事となったため今年度の設計委託を取りやめた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)	
		遊歩道工事の完了(73.4%)	目標	() (73.4%)	()	()	()
			実績	52.7%			
		目標	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	遊歩道整備について平成28年度は28m、平成29年度は590.72m、平成30年度は220mの合計838.72mを予定している。平成29年度は590.72mのうち148.72mは現在の遊歩道を利用する事としたため整備距離が442mとなり、実績値は52.7%となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・木道の設計について予定箇所が平成26年度の計画当初に比べマングローブの繁茂が見られ、そのマングローブ林を保全するため木道の迂回を検討する必要があるが、マングローブ林近辺には市指定天然記念物の植物群落もあり、適当な木道設置場所を選定する事が出来なかった。 ・湾内の水質底質の改善について、湾奥部の水質底質改善効果を探るため作滞や水域浄化試験を行ったが、干潟平地部の耕耘実験が未実施である。干潟平地部は、泥質である湾奥部と違って砂質であり、耕耘を行っても泥の流出は少ないと考えられ、耕耘による底質改善が期待できる。そのため、小規模な実験により水質・底質・底生生物への影響を調査する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与那覇湾内の自然を間近で観察する設備について木道以外も検討する必要がある。 ・湾内の水質底質改善について、湾奥部の作滞及び水域浄化試験の結果を検証し、干潟平地の耕耘実験等の実施し、与那覇湾全体の環境改善策を策定する。

今後の取り組み方針

・今後は沿岸海域で遊歩道としての木道整備を予定しているが、予定箇所の一部にマングローブ林の繁茂が見られるなど与那覇湾内の環境変化が見られるので、与那覇湾を自然観光資源として活用する方法として、現在の木道設置計画を見直し、木道設置計画変更による木道設置、現存の里道等を利用する等、与那覇湾の現状にあった整備を再検討する。

・湾内の水質底質改善の為、干潟平地の耕耘実験等を実施し、その効果について調査を行う。その調査結果と湾奥部の作滞と水域浄化試験の結果を踏まえ、水質底質改善に効果があり、その効果が持続する方を策定する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
36,109	36,109	28,887	7,222	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札により事業者を決定しており、業務は適正に履行されたため支出先は妥当であった。 △設計委託業務をマングローブ林の繁茂を阻害しないために取りやめる等があった。今後は与那覇湾内外の状況把握に努め、計画変更等を早め実施していく必要がある。 ○費用・用途については、支出等に関する書類により確認、適正であった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費用・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宮古島市					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑨		伊良部地区観光地総合整備事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
	担当部署名	伊良部支所 地域づくり課		事業実施 (予定)年度		平成27~33年度	観光客の受入体制の整備
				沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	伊良部地区の観光地の利便性の向上を図るため、駐車場やトイレ等の土木測量、基本設計、実施設計を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(32年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の 状況	(a)当初予算額	5,000	5,000	30,600		
		(b)予算現額	5,000	5,000	24,792		
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲5,808		
		(d)繰越額	-	-	-		
		A.計(b+d)	5,000	5,000	24,792		
	B.執行済額		4,812	4,860	24,791		
	うち交付金充当額		3,849	3,888	19,833		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		96.2%	97.2%	100.0%		
予算の状況の説明		執行残5,808千円は入札残によるものであり、当初計画した事業内容は、計画通り実施され成果品も納品されているので適正に実施されたものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	①土木測量・実施設計業務の実施(通り池:駐車場、 牧山公園:駐車場・遊歩道、渡口の浜:駐車場) ②建築実施設計業務の実施(通り池トイレ) ③土木測量・基本設計の実施(白鳥崎公園木製橋)	目標	測量、実施設計、 基本設計の実施		()	()	
		実績	測量、実施設計、基本設計委託業務の完了				
					()		
達成状況説明	通り池駐車場、牧山公園駐車場、遊歩道、渡口の浜駐車場の測量設計委託を行った。通り池についてはトイレの増築実施設計委託を実施。白鳥崎公園については園路の修復基本設計委託を行った。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (32年度)
	①土木測量・実施設計業務の完了(通り池:駐車場、 牧山公園:駐車場・遊歩道、渡口の浜:駐車場) ②建築実施設計業務の完了(通り池トイレ) ③土木測量・基本設計の完了(白鳥崎公園木製橋)	目標	()	(完了)	()	()	()
		実績		完了			
	【H32成果目標】 観光客の利便性向上が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標				80%
進捗状況説明	通り池駐車場、牧山公園駐車場、遊歩道、渡口の浜駐車場の測量設計委託を行った。通り池についてはトイレの増築設計委託の実施。白鳥崎公園については園路の修復基本設計委託を行った。						

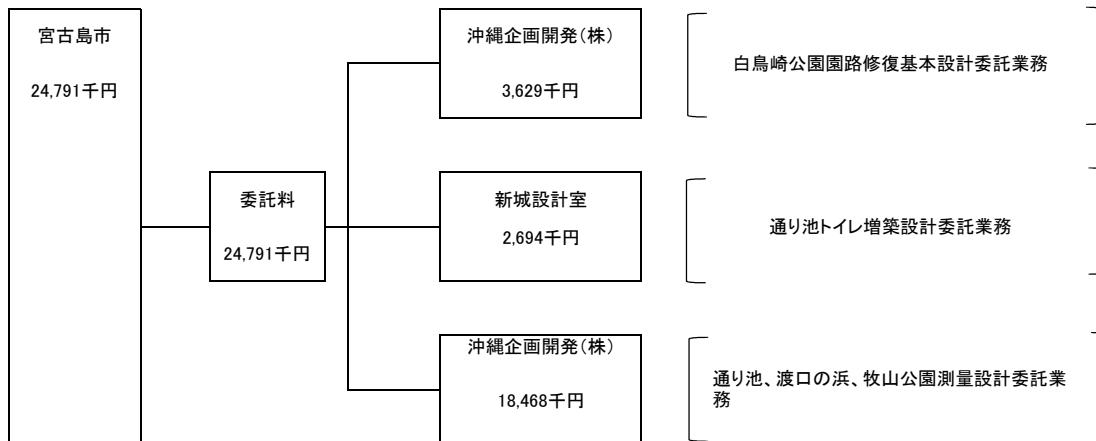
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の実施期間中も、大型クルーズ船の寄港により観光客が急激に増加し続けており、当初見込んだ計画による整備内容で対応可能であるか、観光地の現状を把握しながら進めていく必要があった。 ・渡口の浜については駐車場整備の設計のみを行っていたが、協議を行う過程で、身体障がい者用トイレも必要であるとの結論に至った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後整備予定の観光地について、訪れる観光客数や駐車場利用台数等、最新の利用状況等を常に把握しながら整備を進める必要がある。 ・渡口の浜の身体障がい者用トイレについて、今後の事業の中で整備を進めていく必要がある。

今後の取り組み方針

- ・平成30年度は、観光客数や駐車場利用台数等、各観光地の利用状況等を勘案し、平成29年度に基本設計を完了した白鳥崎公園の園路整備のための実施設計を行う。
- ・平成31年度以降については、渡口の浜の身体障がい者用トイレ整備を進めていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
24,791	24,791	19,833	4,958	0



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○入札の結果のとおり入札残もあり、予算の範囲内での執行となり適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については清算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	宮古島市					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	1-⑩	多言語観光案内サイン整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(ウ)
担当部署名	観光商工部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成29~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備
事業内容	外国人観光客の増加のため、多言語観光案内サインの整備を行い、観光客の利便性・安全性の確保を図る。					
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(31年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
	(a) 当初予算額	10,457				
	(b) 予算現額	9,666				
	(c) 増減額(b-a)	▲791				
	(d) 繰越額	-				
	A. 計(b+d)	9,666				
	B. 執行済額	9,666				
	うち交付金充当額	7,732				
	次年度繰越額	0				
	執行率(%) (B/A)	100.0%				
予算の状況の説明	平成29年度に計画していた事業箇所は全て完了した。入札残により791千円の減額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度
	安全確保サイン設置 3基 (砂山ビーチ・前浜ビーチ・渡口の浜)	目標	(3基)	()	()	()
		実績	3基			
	通り池サイン設置 2基	目標	(2基)	()	()	()
		実績	2基			
達成状況説明	宮古島市の主要観光施設(砂山ビーチ・前浜ビーチ・渡口の浜)に安全確保の為に多言語案内板を設置した。また、主要観光施設である「通り池」への誘導サインを施設入り口付近に2基設置した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
	安全確保サイン設置 3基 (砂山ビーチ・前浜ビーチ・渡口の浜)	目標	()	(完了)	()	()
		実績		完了		
	通り池サイン設置 2基	目標	()	(完了)	()	()
		実績		完了		
	【H31成果目標】クルーズ船客アンケートによる多言語案内表記の満足度(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方について検証する。	目標				
進捗状況説明	砂山ビーチ・前浜ビーチ・渡口の浜の安全確保の為に利用上の注意や海洋危険生物の周知等多言語案内サインを設置した。通り池は入口がわかりづらい箇所へ多言語誘導サインを設置する事により国内や海外からの観光客の受入体制が整備出来た。					

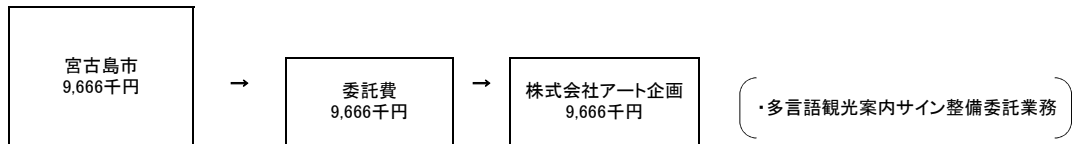
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	クルーズ船の寄港数の増加に伴い、国内のみでなく海外からの入域観光客数が増加しており、多言語による観光案内サインの必要性が高まっている。 また、下地島空港へ海外からのLCCが就航することも予想される為、外国人観光客の受入体制を充実させる必要がある。	国内外の観光客の安全性・利便性を向上させる為、主要な観光地である海岸など看板未設置の箇所についても計画に沿って随時設置していく必要がある。

今後の取り組み方針

H30整備計画は、新城ビーチと吉野ビーチに、利用上の注意や海洋危険生物の周知の為多言語案内サインを各1基ずつ(2基)設置予定。また、主要観光施設である牧山公園の入り口を分かりやすくする為誘導サイン2基を設置予定。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
9,666	9,666	7,732	1,934	0



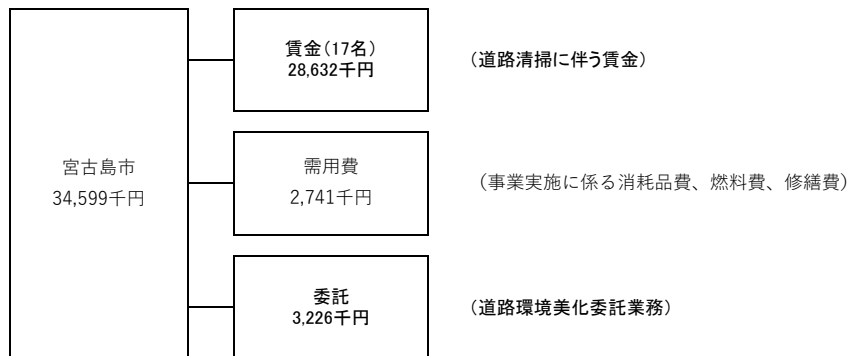
資金の流 れの点 検・費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算額は適正な規模であった。 ○費目・用途については支出に関する資料を検査し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宮古島市					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①		観光地アクセス道路環境美化強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
	担当部課名	建設部 道路建設課		事業実施(予定)年度		平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所
事業内容		美しい島づくりを推進するため、観光地へのアクセス道路の環境美化(除草・清掃)を行う。					Ⅲ-1-(1)
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		(a) 当初予算額	27,405	30,889	33,687	34,912	36,983
	(b) 予算現額	27,405	30,889	32,017	34,912	36,983	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 1,670	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	27,405	30,889	32,017	34,912	36,983	
	B. 執行済額	23,845	29,647	31,452	29,152	34,599	
	うち交付金充当額	19,076	23,717	25,161	23,321	27,679	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	87.0%	96.0%	98.2%	83.5%	93.6%	
予算の状況の説明	宮古島市内の観光アクセス道路33路線の清掃作業を実施した。昨年度に比して、班体制の効率化等により燃料費の減および、当初見込んでいた雇用人数が確保できない期間があり、不用額2,384千円が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
	観光地アクセス道路の環境美化の実施	目標	(作業実施)	(作業実施)	(33路線)	(作業実施)	
		実績	作業実施	作業実施	33路線	作業実施	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	宮古島市の主要観光地へのアクセス道路環境美化を図るため、市道33路線を選定し、17名を雇用し道路清掃作業を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	観光客の受け入れ体制の整備 美化路線数:33路線	目標	()	(受入体制の整備)	(受入体制の整備)	(33路線)	()
		実績		受入体制の整備	受入体制の整備	33路線	
	【H30成果目標】 観光地周辺について、観光地としてふさわしい道路環境及び景観であるか(80%以上)を含め、観光客を対象としたアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標					80%
進捗状況説明	本市内観光地アクセス道路33路線での清掃を実施した。班分け体制にて効率化することで、一年を通して実施することで、観光客の受入体制の整備につながっているため、次年度以降も作業を継続する必要がある。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	近年、観光客が急増しており、レンタカー等の利用者も増えているため、観光客が訪れる場所や観光地へのアクセス道路が増加している。	より観光客の利用が多い道路を優先的に美化するため、環境美化を行う対象路線の見直しを行う必要がある。
今後の取り組み方針		
平成30年度中に、各地域の方々から観光客の道路利用について聴き取りを行い、対象路線の見直しについて検討する。見直しが必要となった場合、平成31年度からは路線を変更して引き続き環境美化を行い、観光客受入のための美しい島づくりを推進する。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
34,599	34,599	27,679	6,920	0



資金の流 れ、費 目 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○賃金職員は、本市条例・規則に基づき審査、決定しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○人数が確保できない期間分の不用額が発生したが、予算規模としては適切であったため、次年度は作業員の確保の取り組みを行う必要がある。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については支出等に関する書類により確認、適正である。

市町村名		宮古島市					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-② 観光地公園環境美化強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ウ		
	建設部都市計画課 伊良部支所地域づくり課		事業実施(予定)年度	平成24~33年度	観光客の受入体制の整備		
担当部署名			沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-1-(1)		
事業内容	美しい島づくりを推進するため、観光地として利用されている公園の環境美化清掃を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
		(a) 当初予算額	11,985	20,466	18,500	11,934	21,723
	(b) 予算現額	11,985	18,182	18,500	18,943	18,813	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 2,284	0	7,009	▲ 2,910	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	11,985	18,182	18,500	18,943	18,813	
	B. 執行済額	11,985	17,669	18,070	16,821	18,743	
	うち交付金充当額	9,588	14,135	14,456	13,456	14,994	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	97.2%	97.7%	88.8%	99.6%	
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・当初計画していた事業内容はすべて実施した。また、活動目標および成果目標を鑑みて適正であったと考えている。 ・不用額2,910千円は、入札残によるものである。 						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	観光地公園環境美化の実施 美化公園数12箇所		目標 (12カ所)	(12カ所)	(12カ所)	(12カ所)	
			実績 12カ所	12カ所	12カ所	12カ所	
	【参考指標】 定期的美化作業 宮古島:年12回(月1程度) 伊良部島:年4~5回		目標 (宮古島:年12回 伊良部島:年4~5回)	(宮古島:年12回 伊良部島:年4~5回)	(宮古島:年12回 伊良部島:年4~5回)	(宮古島:年12回 伊良部島:年4~5回)	
達成状況説明		宮古島観光地公園5箇所(東平安名崎公園・パイナガマ公園・カママ嶺公園・大嶽城址公園・サニツ浜公園)においては、それぞれ月1回以上の美化作業を実施した。 伊良部島観光地公園は7箇所(サバオキ公園4回、フナウサギバナタ5回、白鳥公園5回、通り池5回、佐和田の浜5回、渡口の浜4回、牧山公園5回)の美化作業を実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	入域観光客数年間55万人		目標 (-)	(55万人)	()	()	(-)
			実績	98万人			
	【H30成果目標】 観光地公園について、観光地としてふさわしい景観であるか(80%以上)を含め、観光客を対象としたアンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標				80%
進捗状況説明		宮古島観光地公園の5箇所および伊良部島観光地公園の7箇所の公園美化作業を行い、目標である入域観光客数年間55万人を上回る年間98万人の入域観光客数の受入体制の確保を図ることができた。					

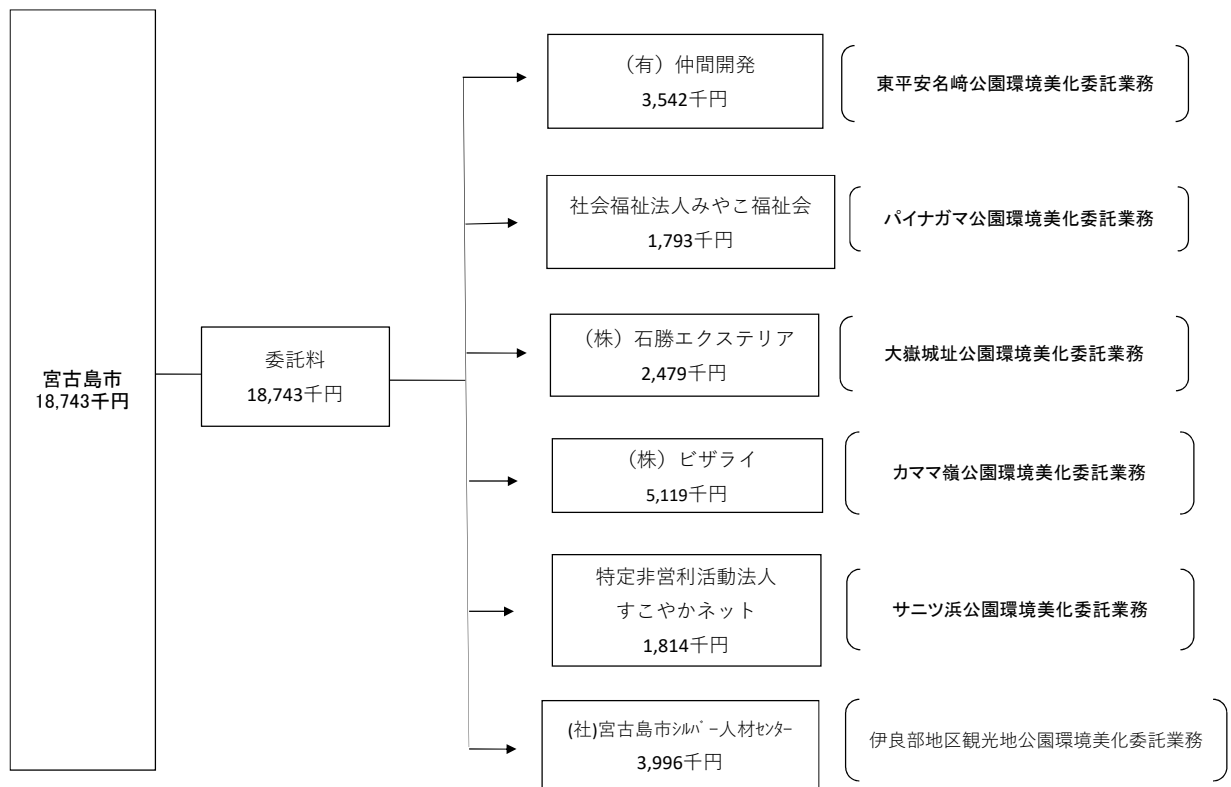
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	入域観光客数は急激に増加しており、観光地公園の来園客数も増加している。来園客数が増加していくと公園環境の悪化が懸念される。	急激な観光客の増加が公園美化にどのような変化を及ぼすか、それを受け観光地公園としての景観形成をどのように行うべきかを早急に検証する必要がある。

今後の取り組み方針

観光客が増加し公園美化にどのような変化が見られるか、また観光地公園としての景観形成をどのように行っていく必要があるかを検証し、今後、除草作業の範囲やゴミ拾いの回数を増やすなど、公園美化環境の最適化に向けて取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,743	18,743	14,994	3,749	0



資金の流 れ、費 目 ・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は地方自治法施行令第167条の2第1項第3号の規定により公表を行った上での随意契約と指名競争入札により実施しており、妥当であったと考える。 ○事業年度に見合った予算規模で適正であったと考える。 ○費用、用途については、事業目的の観点から必要かどうかを検討し、額の確定時において確認しており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宮古島市					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	宮古島オリジナルMICE促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部署名	観光商工部 交流推進課	事業実施(予定)年度	平成28~29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
事業内容	リゾート地等の地域資源を活かしたMICEの推進に向け、インセンティブ旅行(報奨・研修旅行)とイベント(文化音楽・産業・生涯スポーツイベント・展示会等)に特化したメニュー開発やイベントの誘致活動等の取り組みを行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	28年度(繰越)	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a)当初予算額	9,367	-	23,697		
		(b)予算現額	94,587	-	23,697		
		(c)増減額(b-a)	85,220	-	0		
		(d)繰越額	-	34,773	-		
		A.計(b+d)	94,587	34,773	23,697		
	B.執行済額		59,814	34,773	21,461		
	うち交付金充当額		47,851	27,818	17,168		
	次年度繰越額		34,773	0	0		
	執行率(%) (B/A)		63.2%	100.0%	90.6%		
予算の状況の説明		宮古島市スポーツ観光交流拠点施設活用活性化事業の実績額が当初見込みより下回ったこと、誘致活動の回数が当初見込みより少なくなったことが要因となり不用額がでた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	・宮古島オリジナルMICEメニュー開発委託業務の実施	目標	(委託実施)	()	()	()	
		実績	委託実施				
	・宮古島オリジナルMICE PR映像リニューアル業務	目標	(制作)	()	()	()	
		実績	制作済み				
	・宮古島オリジナルMICEウェブサイト作成	目標	(制作)	()	()	()	
		実績	制作済み				
	・イベント誘致活動に向けた企業等訪問	目標	(10件)	()	()	()	
		実績	6件				
・宮古島オリジナルMICE誘客宣伝イベントの実施	目標	(実施)	()	()	()		
	実績	実施					
達成状況説明	今年度の宮古島オリジナルMICE事業に関しては概ね活動目標とおりの取組を行うことが出来たが、宮古島スポーツ観光交流拠点施設の供用開始により管理業務に時間を割いたため企業等訪問の回数が目標より下回った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	・宮古島オリジナルMICEメニュー開発委託業務の完了	目標	()	(完了)	()	()	()
		実績		完了			
	・宮古島オリジナルMICE PR映像リニューアル完了	目標	()	(完了)	()	()	()
		実績		完了			
	・宮古島オリジナルMICEウェブサイト完成	目標	()	(完了)	()	()	()
		実績		完了			
	・イベント誘致5件	目標	()	(5件)	()	()	()
		実績		17件			
	・宮古島オリジナルMICE誘客宣伝イベントの完了	目標	()	(完了)	()	()	()
実績			完了				
【H30成果目標】イベント、企業研修等誘致件数 12件以上		目標				12件	
進捗状況説明	今年度の宮古島オリジナルMICE事業に関しては概ね成果目標を達成した。前年度より誘致活動を継続してきたことでイベント誘致数が目標を上回る事ができた。						

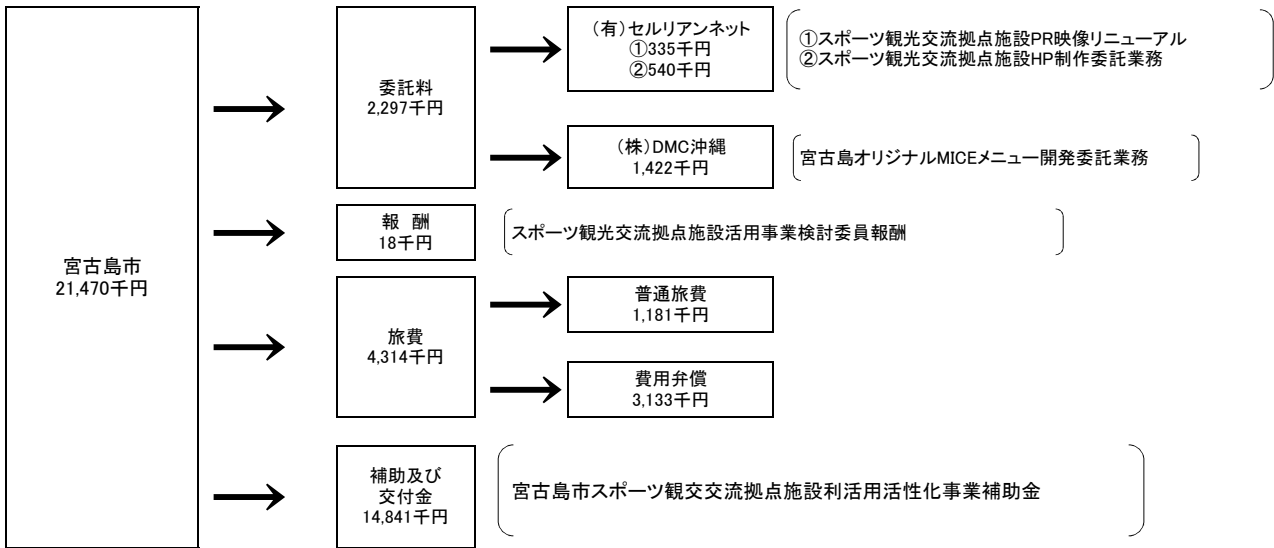
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今年度の、宮古島オリジナルMICE事業に関しては成果目標とおりの取組を行うことが出来た。しかし、アリーナの昼間の稼働率は低く、有効活用に向けた改善の余地がある。	MICEに関するアリーナの利用向上に向けて、企業研修等インセンティブツアーの誘致や、キーパーソン招聘による誘致活動を行う必要がある。

今後の取り組み方針

インセンティブツアーの誘致活動、各種イベントを主催するキーパーソンを対象とした招聘活動を実施し、MICE施設としての有効活用へ向けて取り組んでいく必要がある。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
21,470	21,461	17,168	4,293	9



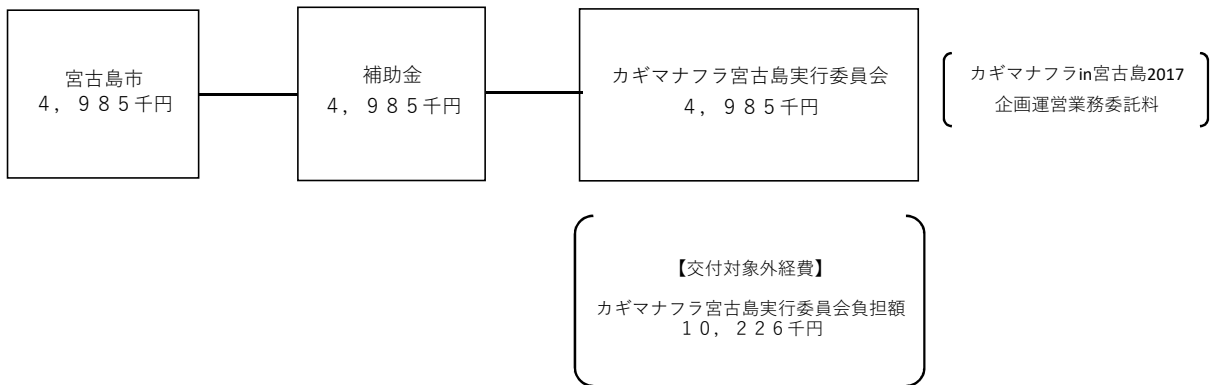
資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の業者選定は、プロポーザルに決定したので妥当であると考えている。 ○予算規模に関しては、適正な規模であったと考えている。 ○費用・使途について精査確認しており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	宮古島フラダンス全国大会支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ		
担当部署名	観光商工部 交流推進課	事業実施(予定)年度	平成25~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘致活動の展開 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	観光客の誘致拡大や地域経済の活性化を図るため、国内外から多くのチームが参加するフラダンス全国大会の宮古島市での開催を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
		(b) 予算現額	5,000	5,000	4,886	4,964	5,000
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 114	▲ 36	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		5,000	5,000	4,886	4,964	5,000
	B. 執行済額		5,000	5,000	4,886	4,964	4,985
	うち交付金充当額		4,000	4,000	3,908	3,971	3,988
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.7%
予算の状況の説明		補助金に関しては、当初予定していた事業内容は全て実施した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	宮古島フラダンス全国大会の支援	目標	(開催支援)	(開催支援)	(開催支援)	(開催支援)	
		実績	開催支援	開催支援	開催支援	開催支援	
		目標					
		実績					
達成状況説明	平成29年10月6日から9日にかけて開催された宮古島フラダンス全国大会へ開催支援として、補助金4,985,195円を交付した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	来場者数(2日間)	目標	()	(4,500人)	(3,000人)	(1,700人)	()
		実績		2,220人	1,498人	2,620人	
	【参考指標】 宮古島市入域観光客数	目標	()	(500,000人)	(500,000人)	(500,000人)	()
		実績		513,601人	703,054人	988,343人	
	進捗状況説明	前回来までの大会プログラムに加えて、新たにカギマナフラウエディングやコンサートなどを開催できた。参加者は、大会日程により3泊4日となるので、経済効果も高く、文化交流・観光振興にも貢献できた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>○参加者からの大会内容に対するの評価は大変高く、多くのリピーターがいる。</p> <p>○県内外にも宮古島市でのフラダンス大会は、広く認知されてきているが、地元参加者は少ない。</p> <p>○宮古島市内のフラチームは、年齢層が若く、人数も少ないため、地元からの観客があまり多くない。</p>	<p>○リピーターに対して、宮古島の魅力発信へ繋げる取り組みが必要である。</p> <p>○宮古島のフラダンス愛好者を増やし、多くの市民が会場へ足を運んで大会の盛り上がり繋がるように、フラダンスの魅力伝えていく企画が必要。</p> <p>○フラダンス愛好者の年齢層を拡大し、若者と高齢者の交流を推進する。</p>
今後の取り組み方針		
<p>○大会プログラムの満足度だけでなく、オプションツアーなどで観光名所や特産品、地元との交流を含めた島の魅力を全国へアピールできるようなプログラムの実施を検討する。</p> <p>○フラダンスは、ゆったり体を動かすので、無理なく健康増進を図ることができること等、積極的にPR・募集活動を行い、地元参加者の増加を図る。</p> <p>○地元の宮古島市民がフラに興味を持ち、若者と高齢者の交流を推進するプログラムを実施し、来場者数(観客)の増加を図る。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,211	4,985	3,988	997	10,226



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金交付要綱に基づき、対象事業を主催する実行委員会を選定しており、妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業終了後に行った会計監査では、特に不要な支出は無く、予算規模は適正であると考えます。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○実行委員会が10,226千円を負担しており、負担関係は適正であると考えます。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・用途については、完了検査にて確認し、適正であると考えます。

市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	クルーズ船観光受入体制強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部署名	観光商工部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成29~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	本市観光産業のさらなる活性化を図るため、増加傾向にあるクルーズ船観光客の受入体制強化に向け、観光案内所の設置、歓送迎セレモニーの開催等を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		15,000				
			15,000				
			0				
			15,000				
			14,361				
	B. 執行済額		14,361				
	うち交付金充当額		11,489				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		95.7%				
予算の状況の説明		不用額639千円は、受託事業者の価格提示による434千円の減額及び委託業務の出来高精算による205千円の減額による。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	①観光案内所設置	目標	(寄港時に実施)	()	()	()	
		実績	寄港時に実施				
	②歓迎・送迎セレモニーの企画・実施	目標	(初寄港時に開催)	()	()	()	
		実績	初寄港時に開催				
	③通訳の確保	目標	(適切な人数を配置)	()	()	()	
		実績	中国語通訳が不足				
	④アンケート実施	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
達成状況説明	クルーズ船観光受入体制強化事業委託により、①~④を実施した。 ①観光案内所は委託期間中、チャーター便など観光案内所が不要な場合を除き、すべて開設。二次交通への案内、多言語マップの配布などを行った。②初寄港船に対し、歓送迎セレモニーを7回実施。シーズン最後の寄港時に、ノベルティー等を配布。③通訳の確保については、中国語対応スタッフが不足していた。満足度向上のためには、人材確保が必要。④アンケートは、7~8月にかけて県宮古事務所と連携して、クルーズ船観光客に対して実施。12月には地元商店街にて、クルーズ船観光客受入に関するアンケートを実施。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	クルーズ船観光客の満足度(観光案内所)	目標	()	(65%)	()	()	()
		実績		49%			
	【参考指標】クルーズ船寄港回数	目標	()	()	()	()	()
		実績		147回			
【H30成果目標】クルーズ船観光客数429,550人以上	目標					429,550人	
進捗状況説明	沖縄県宮古事務所が実施しているクルーズ船観光客に対するアンケート調査のうち、観光案内所について「非常に満足」を選択した観光客の割合で算出。H28年度満足度割合は60.2%。平成28年度の寄港回数は89回。						

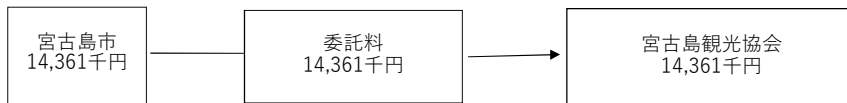
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・当初予期できぬクルーズ船寄港回数的大幅な増加、および船舶の大型化による観光客数の急激な増加により、観光案内所のサービスが低下し、観光客の満足度が下がったと考えられる。また、当面は通訳スタッフの確保が課題。</p>	<p>・今後は観光案内所の人員増加や通訳スタッフの確保など、サービス向上に努める必要がある。</p>

今後の取り組み方針

・クルーズ船観光客の観光案内所に対する満足度割合を高めるために、観光案内所スタッフを増員し、サービスの向上を図る。H29年度は、二次交通(バス・タクシー)への案内、地図の配布が、主な観光案内所の業務であった。H30年度は、散策マップを配布するなど、観光メニューの多様化にも努めたい。通訳については、紹介等により、通訳スタッフのリストを充実させるよう努めたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
14,361	14,361	11,489	2,872	0



- ・多言語の観光案内所の設置
- ・パンフレット等による情報発信
- ・臨時CIQの設置
- ・バス・タクシーへの案内板の設置および誘導
- ・歓送迎セレモニー
- ・アンケート等の情報収集

資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は地方自治法施行令第167条の2第1項第2号に基づき、随意契約を行っており、妥当であったと考えている。</p> <p>○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

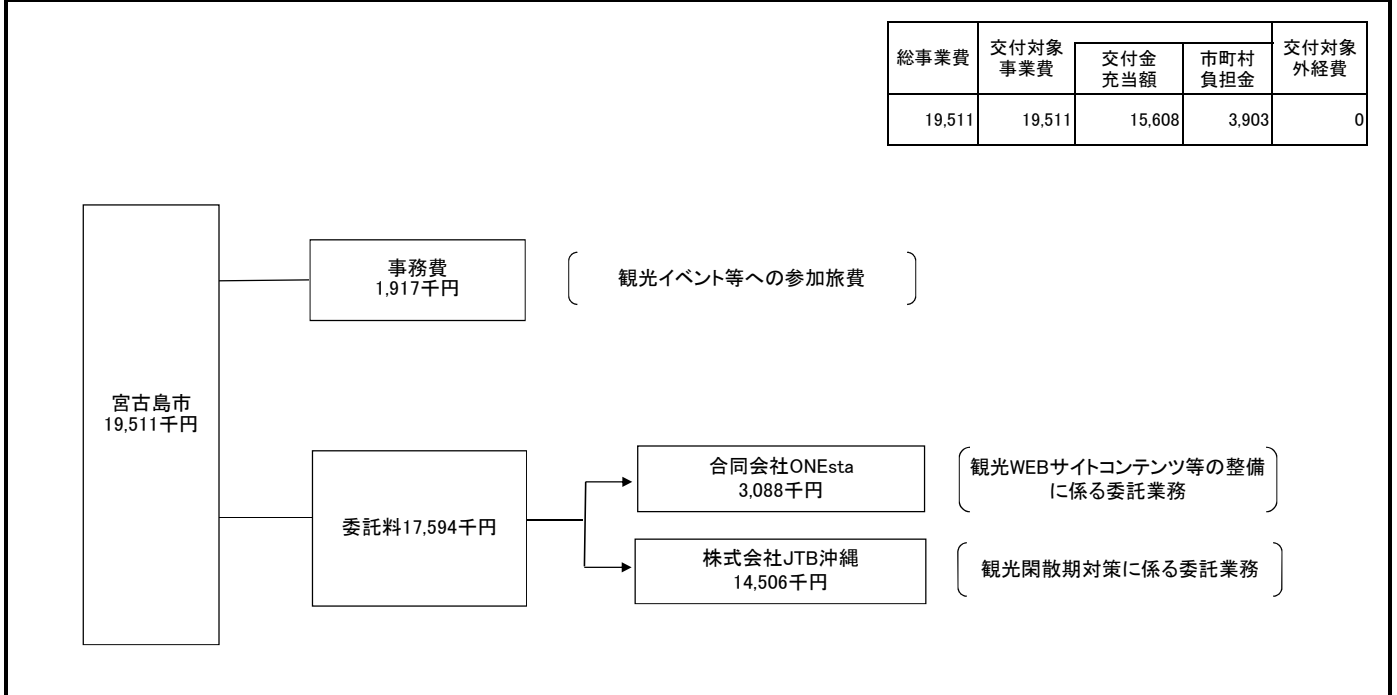
市町村名		宮古島市					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④		誘客促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ	
	担当部署名	観光商工部 観光商工課		事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 Ⅲ-1-(1)
事業内容		入域観光客数の増加を目的として、ウェブサイトやSNS等を活用したプロモーション等を継続的に実施するとともに、本市の認知度向上に向け、県内外における集客力の高い観光PRイベント等へ参加する。また、観光閑散期対策として、閑散期(冬期)における誘客にも取り組む。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	48,085	43,000	—	25,000	28,000
		(b) 予算現額	48,085	83,000	—	20,370	21,000
		(c) 増減額(b-a)	0	40,000	—	▲ 4,630	▲ 7,000
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		48,085	83,000	—	20,370	21,000
	B. 執行済額		47,198	78,942	—	20,068	19,511
	うち交付金充当額		37,757	63,152	—	16,054	15,608
	次年度繰越額		0	0	—	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.2%	95.1%	—	98.5%	92.9%
予算の状況の説明		当初予定していた多言語パンフレット作成は他事業で実施する事となった為取り下げ、予算7,000千円を減額した。1,489千円の不用額は委託料における受託事業者の価格提示等によるもの。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	①観光PRイベント等への参加	目標	(参加件数:3件)	()	(イベント参加)	(イベント参加)	
		実績	参加件数:7件		イベント参加	イベント参加	
	②ウェブサイトやSNS等を活用したプロモーションの実施(コンテンツ等の整備)	目標	(情報発信)	()	(情報発信)	(情報発信)	
		実績	情報発信		情報発信	情報発信	
	③閑散期対策(コンテンツの開発)	目標	(コンテンツ開発)	()	(コンテンツ開発)	(コンテンツ開発)	
実績		コンテンツ開発		コンテンツ開発	コンテンツ開発		
達成状況説明	【観光PRイベント等への参加】 閑空旅博やせたがやふるさと区民まつり等のイベントで、宮古島の観光PRを行ったほか、クルーズ船ゲンティンドリーム号での船内プロモーション活動を行った。 【ウェブサイトやSNS等を活用したプロモーションの実施(コンテンツ等の整備)】 観光WEBサイト(宮古島style)のコンテンツ追加及び修正、デザイン変更を行いアクセス増加を図るとともに、Facebookの活用と併せて宮古島の情報を発信した。 【閑散期対策(コンテンツの開発)】 平成26年度に観光客が減少する冬期の誘客を目的として「ゆっくりと くらすように 旅する」をコンセプトに立ち上げた「ゆるくプロジェクト」を平成29年度においても実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	入域観光客数710,000人以上	目標	()	(500,000)	(500,000)	(710,000)	()
		実績			513,601	703,054	988,343
進捗状況説明	宮古島市への入域観光客数は昨年度と比較して大幅に増加し、目標710,000人対し、実績は988,343人となり目標を達成した。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>入域観光客数が大幅に増加した最も大きな要因は、クルーズ船の寄港回数が増加した事である。また、空路についても、期間運航した名古屋直行便による観光客数の増加をはじめ、羽田・関西からの直行便による観光客数も順調に増加した。宮古島市では、第2次宮古島市総合計画において、平成33年度の入域観光客数120万人を目標として掲げており、目標達成に向けて引き続き誘客促進に取り組んでいく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光WEBサイトを活用した情報発信については、さらにコンテンツを充実させ、サイトを訪れる方を楽しませる工夫を続けていく必要がある。特にFacebookについては、継続的に最新の情報を発信する必要がある。 閑散期対策については、閑散期の入域観光客数も伸びているものの、繁忙期がさらに大きく伸びており、平準化が進まない状況にある為、継続して取り組む必要がある。 観光PRについては、今後も積極的にイベント等に参加して宮古島をPRしていく必要がある。さらに、今後は下地島空港のターミナル開設を目前に控えており、国内外のプロモーションを実施する必要がある。

今後の取り組み方針

- ・観光WEBサイトについては、コンテンツの充実に向け、宮古島市で行われる各種イベント等を紹介するコンテンツを追加する。
- ・閑散期対策については、早期に事業を発注し、冬の旅行を計画している方々に「ゆるくプロジェクト」をPRし、冬期の観光客増加につなげていく。
- ・観光PRについては、県やOCVB、宮古島観光協会及び下地島空港ターミナルを運営する三菱地所と連携して取り組みを進める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 用・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業の実施にあたっては公募型プロポーザル方式により、委託事業者を選定したほか、実績、知識等の面で信頼性がある事業者を選定して契約しており、支出先としては妥当であると考え。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、実施内容の見直しによる途中減額があり、今後はさらに事業計画の精度を上げる必要がある。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については、事業完了後に検査を行った結果適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	バイオエタノール製造・流通事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-イ	
担当部署名	企画政策部 エコアイランド推進課	事業実施(予定)年度	平成24~31年度		沖縄振興基本方針該当箇所	クリーンエネルギーの推進	
事業内容	サトウキビのカスケード利用を通じた循環型社会の構築及び沖縄型バイオエタノールの事業化に向け、付加価値の高いバイオエタノールの多用途開発、残渣液の液肥の効果検証など、量産化及び多用途による事業採算性向上に向けた実証事業を実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)		69,000	69,000	113,634	110,159	
			68,272	69,000	85,632	110,159	
			▲ 728	0	▲ 28,002	0	
			—	—	—	—	
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)		68,272	69,000	85,632	110,159	
			65,465	67,690	83,714	57,678	
			52,372	54,152	66,971	46,142	
		0	0	0	0		
		95.9%	98.1%	97.8%	52.4%		
予算の状況の説明	不用額52,481千円のうち、51,736千円は当初予定していた給食調理場2ヶ所のボイラー設置工事を市単費での対応としたことによるもの。745千円は委託料における受託事業者の価格提示によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況					
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	学校給食調理場へのバイオエタノール用ボイラー導入	目標	(導入)	()	()	()	
		実績	-				
	島内産土壌還元消毒剤の開発、製造試験の実施	目標	(試験実施、ヒアリング調査実施)	()	()	()	
		実績	試験未実施、ヒアリング調査実施				
	液肥等の販路拡大	目標	(販路拡大)	()	()	()	
実績		販路拡大					
達成状況説明	・学校給食調理場へのバイオエタノール用ボイラー導入については、市単独事業として導入した。 ・島内産土壌還元消毒剤の開発、製造試験の実施については、今年度の圃場試験先が確保できず実施できなかったものの、前年度既に洗浄作業を行った農家へのヒアリング調査の結果、農地の病原菌の再汚染がないため、隔年での消毒作業が効率的かつ消毒コストの削減につながるとの知見を得た。 ・液肥等の販路拡大については、JAなどでの店舗販売や各種イベントなどでの広報活動により総販売量が前年度比で1.8倍伸び、商品知名度の向上が確認できた。						

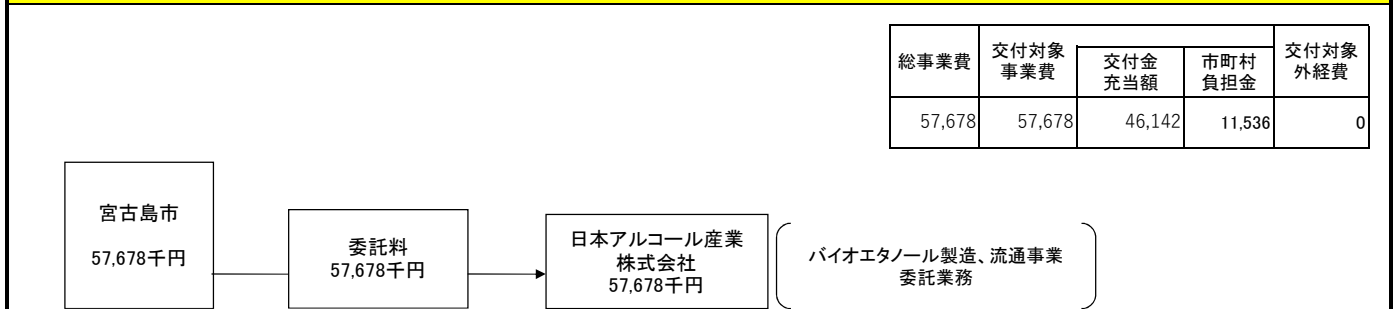
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (年度)
			学校給食調理場へのバイオエタノール用ボイラー導入(3基)	目標	()	(3基)	()
		実績		-			
	島内産土壌還元消毒剤の開発、製造試験の完了	目標	()	(試験実施、ヒアリング調査)	()	()	()
		実績		試験未実施、ヒアリング調査実施			
	液肥製造販売	目標	()	(20t)	()	()	()
		実績		2.3t			
	バイオエタノールの製造(100kL/年)	目標	()	(100kL製造)	()	()	()
		実績		53.8kL製造			
	ボイラー代替燃料としてバイオエタノールを活用することによるCO2排出量削減見込量:300t/年	目標	()	(300t/年)	()	()	()
		実績		169t/年			
進捗状況説明	<p>・学校給食調理場へのバイオエタノール用ボイラー導入(3基)については、市単独事業として予定通りバイオエタノール用ボイラーを導入した。</p> <p>・島内産土壌還元消毒剤の開発、製造試験の完了については、土壌還元消毒用資材を製造するため、経済産業省から使用許可証が交付されたものの、実施する圃場試験先が見つからず、試作はなし。</p> <p>・液肥製造販売については、ボイラー燃料としてバイオエタノールの生産が9月からとなった為、当初計画より減産となった。</p> <p>・バイオエタノールの製造については、製造目標に対し実績で減産しているのは、発酵設備の冷却装置部品の故障等により、製造を行った期間が当初予定していた7ヶ月間から3ヶ月間に短縮されたため。</p> <p>・ボイラー代替燃料としてバイオエタノールを活用することによるCO2排出量削減量として、稼働開始時期の遅れもあり当初計画より低い実績となった。</p>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	液肥販売では前年度比1.8倍と収支改善が見られ、バイオエタノールの製造コストも低減しつつあったが、施設設備の老朽化や塩害による故障が頻発し、毎年高額な設備更新費が必要になると試算が出た。	今後予想される施設設備の維持管理費と更新費が想定外に高額であった為、市として事業継続性の再検討後、事業化困難との結論となった。

今後の取り組み方針

今後の事業継続は困難と判断し、平成29年度をもって実証事業を終了することとした。
当実証事業について、今後は、指定管理者がこれまで培った技術と知見を基に、肥料、土壌還元消毒用資材の高付加価値化について調査、検討を進めていく予定である。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



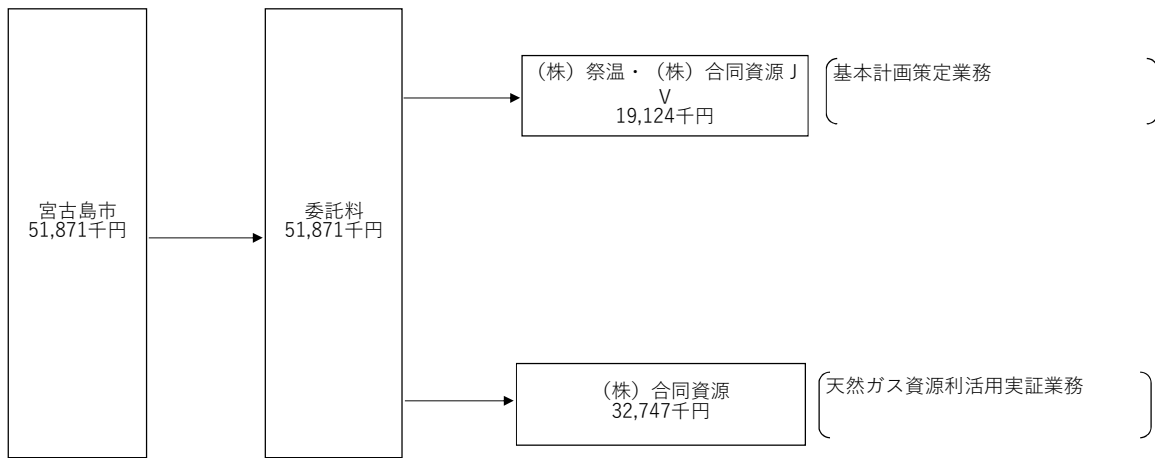
資金の流 れ、費 目 ・ 費 目 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は製造施設の指定管理者であり、また当事業はこの製造施設を活用して行われること、企業組織、実績、知識等からも同社へ委託することが適当であり、競争に適さないと考え随意契約とした。 △予算内容としては、エタノール製造・流通に関しては、製造に係る経費がほとんどであり適正な規模と考えるが、ボイラ設置工事については、不用があった。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	宮古島市天然ガス資源利活用推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-イ		
担当部署名	企画政策部 エコアイランド推進課	事業実施(予定)年度	平成28~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	クリーンエネルギーの推進		
事業内容	宮古島の地下資源である天然ガス及び付随水(温泉水)を利活用した事業化実現のため、マーケティング調査等を実施し、利活用基本計画の策定を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(32年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	35,000	52,000			
		(b) 予算現額	35,000	52,000			
		(c) 増減額(b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	-	-			
	A. 計(b+d)		35,000	52,000			
	B. 執行済額		34,987	51,871			
	うち交付金充当額		27,989	41,497			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.8%			
予算の状況の説明		基本計画策定及び実証業務の委託料について、執行率は99.8%であり的確な予算立て、執行ができています。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況					
		29年度	30年度	31年度	32年度		
	基本計画の策定	目標 (計画策定)	()	()	()		
	実績	計画策定					
達成状況説明	当初の目標どおり宮古島市天然ガス資源事業化推進検討委員会を3回開催し、利活用基本計画の策定を行った。また、宮古島市における温浴施設マーケティング調査、天然ガス資源利活用実証業務では天然ガスを利用した発電実証、かん水を利用した足湯の設置、生産の落ち込む冬季におけるオクラの温水を使用した促成栽培の実証を行い有用性・利活用の方法等を検討した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(32年度)	
	基本計画の策定完了	目標	()	(策定完了)	()	()	
		実績		策定完了			
	【H32成果目標】 本事業の報告を踏まえ目標を設定し、天然ガスを利用した事業の円滑な実施につなげる	目標				-	
進捗状況説明	当初の目標どおり、宮古島市天然ガス資源事業化推進検討委員会を3回開催し、利活用計画の検討を行い宮古島市天然ガス資源利活用基本計画書の策定を完了した。 今後は、策定した計画をもとに、さらなる事業化の可能性を調査するため、実証等を行い、温浴事業主体の公募を進める。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 宮古島市天然ガス資源事業化推進検討委員会において、以下のとおり課題の提言があった。 <ul style="list-style-type: none"> ①熱利用については一定の成果が得られたため、天然ガスの農業利用について実証を行う必要がある。 ②温浴事業等の優先交渉権者を公募する必要がある。 現在、R-1号井から出る天然ガス資源を試掘権により利用しているが、試掘権は存続期間が2年と定められており、延長申請を行っても最大で4年しか利用することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの必要性については、以下のように取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ①ガス発電を活用した農業実証を行う。 ②公募内容を検討し、具体化する。 広域展開や事業の多角化を図る為には、安定したガス資源の確保が必要となり採掘権の確保の他、第2・第3号井の掘削の検討が必要である。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> 次年度は、以下のように取り組んでいく。 <ul style="list-style-type: none"> ①ガス発電を活用したコンテナ植物工場の実証を行う。 ②付随水(温泉水)を活用した温浴事業等の優先交渉権者の公募を行う。 存続期限のある試掘権から、期限のない採掘権へ変更する手続きを行っていく。また、温浴施設の規模を公募業者と協議し井戸の必要数を算定し、掘削の検討を行う 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
51,871	51,871	41,497	10,374	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託業者は公募型提案で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の0.2%以内であり適正な規模であった。 ○費目、用途については完成検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	エコアイランド宮古島ブランド化推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部署名	企画政策部 エコアイランド推進課	事業実施(予定)年度	平成28~31年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
事業内容	エコアイランド宮古島のブランド化を図り、関連産業の高付加価値化を通じた地域経済への波及効果を高めるため、平成28年度に策定したアクションプランを踏まえた各種施策の展開を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	(a) 当初予算額	3,000	12,000				
	(b) 予算現額	3,000	12,000				
	(c) 増減額(b-a)	0	0				
	(d) 繰越額	-	-				
	A. 計(b+d)	3,000	12,000				
	B. 執行済額	2,997	11,685				
	うち交付金充当額	2,397	9,348				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	99.9%	97.4%				
予算の状況の説明	不用額315千円については、委託業務の出来高精算による減額及び旅費の執行残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況					
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	・H28年度に策定した戦略に基づいた広告・宣伝	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	・コーディネーターによる視察受入れ実証	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	・島内関係者への支援制度構築及び効果検証	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	一部実施				
	達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・H28年度に策定したアクションプランに基づき、エコアイランドに関する周知を図った。 ・環境エネルギー関係の視察受け入れを既に行っている国内の先進地において、実際にツアーの案内を行っている実務担当者を招聘し、本市の視察を体験した上での可能性、課題等についてコメントを得た。コーディネートについては、事前に実際の受け入れを想定し、委託先事業者と詳細を詰めたうえで、委託事業者が行った。 ・コミュニケーションプラットフォームとして、エコアイランドのオフィシャルサイトを構築した。サイトには、市内でエコ関連の活動を行っている個人や団体等を取材し、ブログ記事や映像コンテンツとして編集したものを掲載し、市民が主体となって取り組んでいる状況を広く周知。SNS等と連携した戦略的な情報発信を行った。 ・「エコ×〇〇」といったテーマを設定したワークショップ等を開催するとともに、リアルなコミュニケーションの場として有効なイベント等についての検討を行った。 ・市民や事業者のエコアクションを支援する制度について、より楽しみながら参加可能な制度について、企画立案を行った。検討過程において、当初は一般的な補助金制度のような設計で検討を進めていたが、市民が楽しみながら参加するという条件を満たさないのではないかとの議論を踏まえ、検討途中において、設計を全面的に見直すこととなったため、効果検証には至っていない。 					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度
・視察受入れスキームの確立		目標	()	(スキーム確立)	()	()	()
		実績		スキーム確立			
・支援制度の構築		目標	()	(制度構築)	()	()	()
		実績		制度設構築			
【30成果目標】 エコ活動イベント参加者		目標					500人
【30成果目標】 Webページアクセス数		目標					25,000件
進捗状況説明	エコアイランドに関する視察の受け入れ体制については、窓口となる民間事業者を市が認定するスキームづくりを行い、受け入れの窓口を担う事業者募集を行い、概ね準備が整った。 市民や事業者のエコアクション支援制度については、より市民が楽しみながら参加できる仕組みづくりに向けて、様々な方策を検討し、制度の設計を行った。						

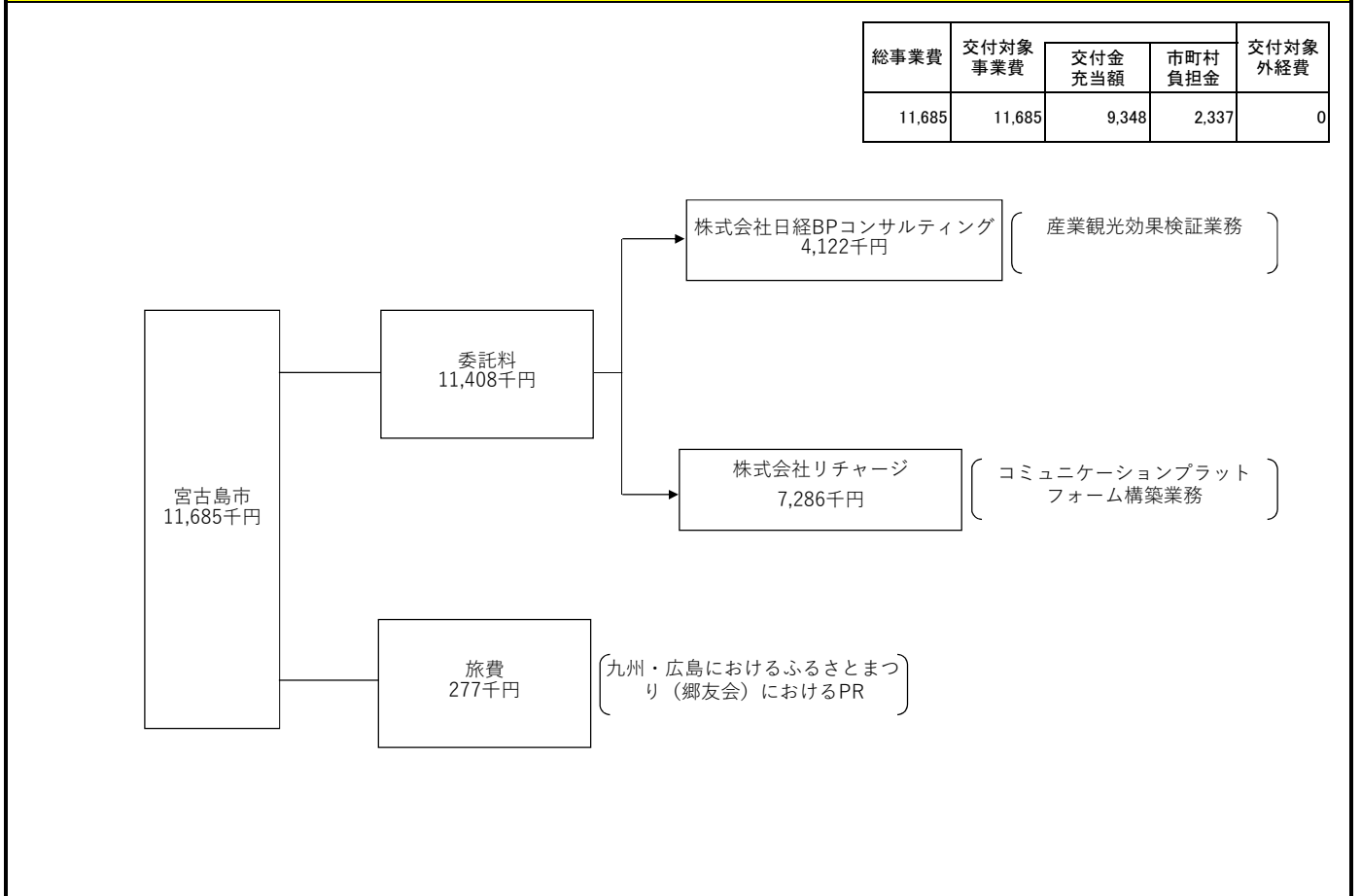
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>(視察受入れスキーム) 視察に関しては、既にスキームはほぼ確立できている。</p> <p>(支援制度) 支援制度に関しては、当初金銭的な支援(補助制度等)を想定していたが、平成29年度の調査検討の結果、金銭的なインセンティブよりも、「楽しめる」ことの方が、より重要であるとの方向性が明確になり、制度の基本的な枠組みを見直した。</p>	<p>(視察受入れスキーム) 地域内の連携を密にしながら実際の受入れ結果を踏まえてスキームを改善していく。</p> <p>(支援制度) 支援制度に関しては、楽しみながら参加できる仕組みについて試験的に実施することで、改善点を検証する。</p>

今後の取り組み方針

(視察受入れスキーム)
視察の受入れに関しては、今後、応募のあった事業者と受入れに関する詳細について協議し、視察受入れの対応を早々に開始したい。

(支援制度)
平成30年度に実施するエコアクションの支援制度については、エコ関連の講座やイベント等に参加することで、理想通貨(地域クーポン)を収集できる仕組みづくりを行う(一部別予算)ほか、エコアイランドに貢献する企業の認定制度等、具体的にエコアイランドの活動に参画する個人や企業の裾野を広げていくための事業を展開する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託料に関しては公募型プロポーザルで選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市
------	------

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-④	電気自動車普及促進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ウ
担当部署名	企画政策部エコアイランド推進課	事業実施(予定)年度	平成28~30年度	低炭素都市づくりの推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容 電気自動車の普及促進を図るため、平成28年度の実態調査及び策定した基本計画に基づき、必要な施策の検討を行う。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	5,000	20,000			
	(b) 予算現額	5,000	20,000			
	(c) 増減額(b-a)	0	0			
	(d) 繰越額	-	-			
	A. 計(b+d)	5,000	20,000			
	B. 執行済額	5,000	19,975			
	うち交付金充当額	4,000	15,980			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率(%) (B/A)	100.0%	99.9%			
	予算の状況の説明	効果検証業務の委託料について、不用額が0.1%にも満たなかったことから、適切であった。				

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		29年度	30年度	31年度	32年度
・充電インフラ整備における効果検証	目標	(実施)			
	実績	実施			
・電気自動車普及に係る啓蒙活動	目標	(実施)			
	実績	実施			
・V2Hの実証実験実施・効果検証	目標	(実施)			
	実績	未実施			
・メンテナンス体制構築に向けた施策の検討	目標	(検討)			
	実績	検討			
達成状況説明	H28年度に策定した基本計画に基づき、各取組を実施した。 ・充電インフラ整備については、セキュリティネットとしての急速充電器の設置、充電利便性向上を目的とした普通充電器の設置を行い(別予算)、その効果を図った。 ・啓蒙活動については、パンフレット配布や電気自動車体験利用を実施した。 ・V2Hの実証については、民間にて同様の内容の取り組みを行っていたため未実施とした。 ・メンテナンス体制構築に向けては、短期的に実施すべき事項と長期的に取り組む事項を整理した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
			・充電インフラ整備による効果検証完了	目標	()	(検証完了)
	実績		検証完了			
・実証実験実施によるメリット検証完了	目標	()	(検証完了)	()	()	()
	実績		検証完了			
【H30成果目標】EVの普及台数	目標					320台
【H30成果目標】EV整備士育成プログラム参加者数	目標					8社 8人
進捗状況説明	・充電インフラ整備による効果検証については、アンケート調査を実施し、急速充電器の整備及び課金制度導入により、セキュリティネットとしての運用が促進された可能性が高いことが判明した。 ・メリット検証としては、電気自動車体験利用者へのアンケート調査を実施し、電気自動車の特性について、静粛性が高い、地球環境に優しい、航続距離が短い、充電箇所が少ないと感じる人が多い結果となった。					

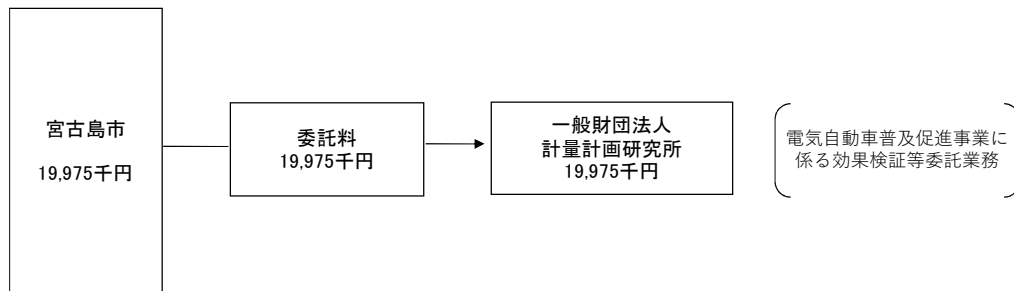
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>①充電インフラ整備については、電気自動車の利用者へ急速充電器の有料化の目的や経緯が明確に伝わっていない部分がある。また、EVは自宅等充電が基本となるが、集合住宅は建物所有者(又は管理者)と車両利用者が異なることから、充電環境整備に課題がある。</p> <p>②メリット検証については、中古EVが本格的に流通し始めており、低廉化が進んでいることから、燃料費のみで、十分メリットが出る状況になってきている。しかし、EV固有の特性(電池の劣化等)によるトラブルも懸念される。</p> <p>③EVのメンテナンスには、ガソリン車の整備とは異なる技術が必要であるが、研修等による技術を習得する機会が得にくい状況となっている。</p>	<p>①充電インフラ整備に関しては、市の充電インフラのあり方に関する考えを市民に周知徹底していく必要がある。また、本市の住宅総数の約4割を集合住宅が占めることから、今後の普及に向けては集合住宅の充電環境整備の検討が必要である。</p> <p>②メリット検証については、中古EVについて価格面から今後の普及が見込まれるものの、EV固有の特性(電池の劣化等)によるトラブルを未然に防ぐ必要がある。</p> <p>③EVメンテナンスの技術者を育成する仕組みを構築する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

- ①充電インフラ整備について、情報発信を実施し市民への周知を図り、EV利用者へのアンケート調査により、市の考え方の理解度について情報収集を図る。また、集合住宅への充電器整備に係る課題解決に向けた実証を実施する。
- ②メリット検証について、パンフレットや中古EV購入にあたってのポイント集を作成し、情報発信・啓発に努める。また、集合住宅への充電器整備に係る課題解決に向けた実証を実施する。
- ③メンテナンス体制構築に向けて、自動車整備事業者・技術者を対象にした勉強会の実施、高校生を対象にした出前講座等を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,975	19,975	15,980	3,995	0

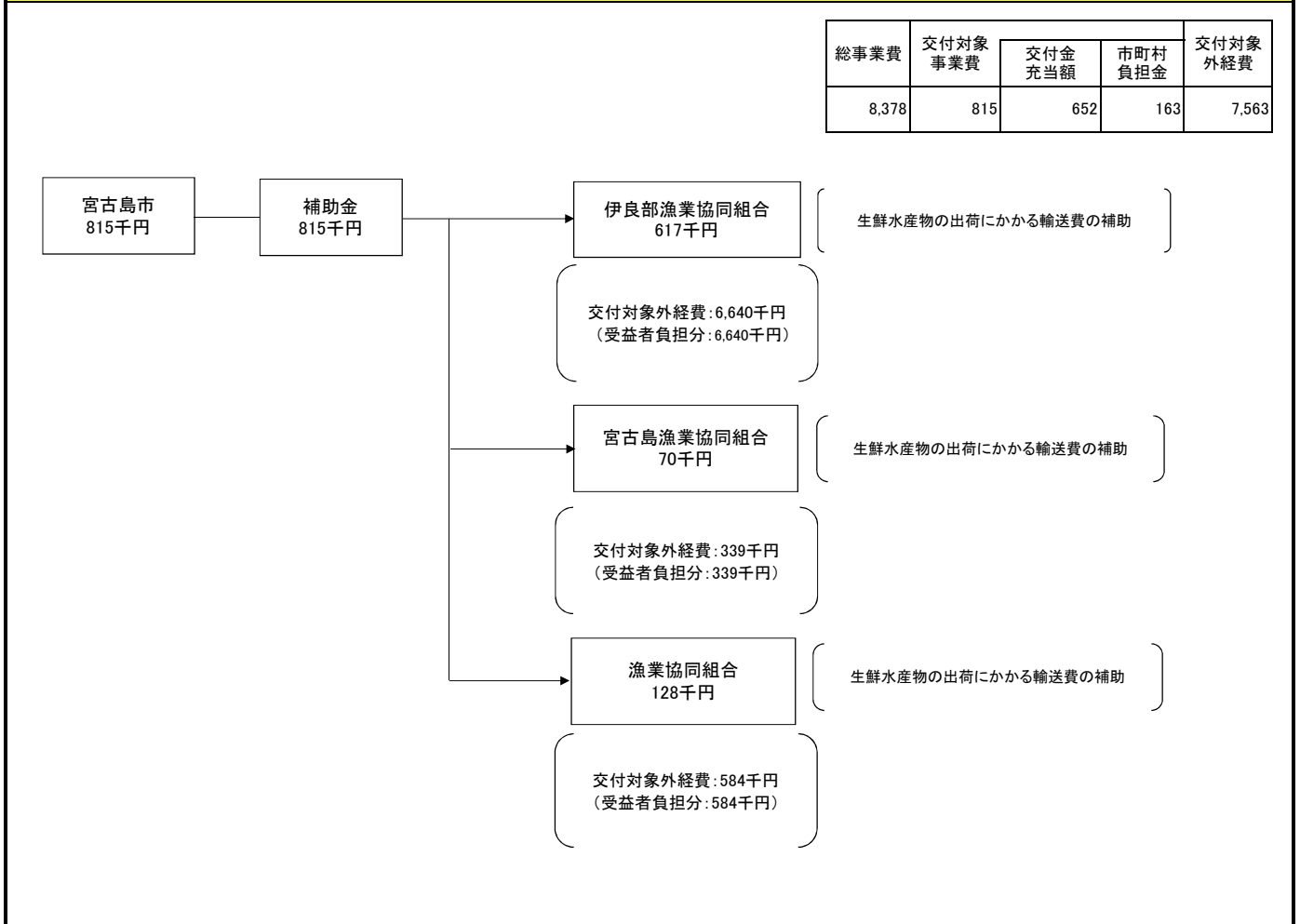


資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、プロポーザルによる選定により決定しており、地方自治法及び宮古島市契約規則に則り、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の0.1%以内であり適正な規模であった。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	生鮮水産物流通条件不利性解消事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ	
担当部署名	農林水産部 水産課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産業の振興 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	離島という地理的事情から生じる流通条件の不利性を解消し、水産業の活性化を図るため、宮古島市に存する漁業協同組合(宮古島漁業協同組合、伊良部漁協同組合、池間漁業協同組合)が沖縄本島へ出荷する生鮮水産物の空路輸送に対し、補助金を交付する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	13,750	14,025	1,560	3,315	950
		(b) 予算現額	5,550	1,530	1,560	491	1,206
		(c) 増減額(b-a)	▲ 8,200	▲ 12,495	0	▲ 2,824	256
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	5,550	1,530	1,560	491	1,206
		B. 執行済額	831	1,168	475	419	815
		うち交付金充当額	77	934	379	334	652
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	15.0%	76.3%	30.4%	85.3%	67.6%
予算の状況の説明	輸送費の上昇により、他事業から流用して予算256千円を増額した。不用額391千円は、出荷量が伸びなかったことを理由とする補助金精算の執行残である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	生鮮水産物の空路輸送に対する補助(3漁協)	目標	(出荷補助(3漁協))	(出荷補助(3漁協))	(出荷補助(3漁協))	(出荷補助(3漁協))	
		実績	出荷補助(1漁協)	出荷補助(2漁協)	出荷補助(2漁協)	出荷補助(3漁協)	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	当初計画のとおり3漁協全ての補助申請に対して補助を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(H23年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(H33年度)	
	生鮮水産物の沖縄本島への出荷量(190トン)	目標	(250トン)	(260トン)	(255トン)	(190トン)	(200トン)
		実績		133.9トン	183.0トン	142.7トン	
	目標	()	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	○平成29年度は、伊良部大橋の開通等を起因とした入域観光客数の大幅な増加等に伴い、島内需要が年々高まっていることから、島外出荷に要する数量が十分に確保できない。事業採択時と比較して島内における需給状況が変わっており、目標値が現在の流通状況に見合っていないため目標の下方修正を行った。 ○結果、平成29年度は、平成28年度よりさらに入域観光客が増加し、島内需要が高まり島外出荷に要する数量が十分に確保できなかったため、平成28年度の実績値を下回った。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>○平成27年1月の伊良部大橋の開通、クルーズ船の寄港数の増加等を要因とした入域観光客数の大幅な増加等に伴い、島内需要が年々高まっていることから、島外出荷に要する数量が十分に確保できていないことが目標値未達成の要因と考えられる。 (・入域観光客数 H26年度 43万人、H27年度 51.3万人、H28年度 70.3万人、平成29年度 98.8万人) (・クルーズ船の寄港実績 H27年度 13回、平成28年度 86回、平成29年度 147回 *平成27年に10年ぶりの寄港があり、以後、年々増加していく機運にある。)</p>	<p>○事業実施者との間で意見交換等の協議を随時行い、島内需要の現状確認等の情報共有を図る必要がある。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>○島内需要の高まりを受け、島外出荷を抑え、島内出荷を優先する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助対象事業者である漁協は水産業協同組合法に基づき私的独占の禁止が謳われた組織であることから、支出先として妥当であると考えられる。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	△輸送費上昇に伴い、補助金が足りない見込みとなり別事業から予算流用を行い対応したが、見込額ほど執行額が伸びなかったこと等を要因として、執行率が低くなったため、適正な規模であったとは言えない。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○輸送費の実績値に対し要綱に基づき算定された額を補助しているため負担関係としては妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については遂行状況や実績報告でその都度確認を行っており、精算時の検査により目的に即し必要なものであったと判断した。

市町村名		宮古島市					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-① 救命処置普及強化支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(11)-イ		
	消防本部 総務課		事業実施(予定)年度	平成28~32年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上	
担当部署名	消防本部 総務課		事業実施(予定)年度	平成28~32年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9	
事業内容	地域住民や増加傾向にある観光客の安心・安全の確保のため、各種救命講習会による救急救命措置などの普及強化を図る。また24時間営業のコンビニエンスストアへAEDを設置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	18,495	7,402			
		(b) 予算現額	18,495	7,893			
		(c) 増減額(b-a)	0	491			
		(d) 繰越額	-	-			
	A. 計(b+d)		18,495	7,893			
	B. 執行済額		16,007	7,893			
	うち交付金充当額		12,805	6,315			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		86.5%	100.0%			
予算の状況の説明		新規コンビニエンスストア開店に伴いAED購入費として、9月補正で予算491千円を増額した。応急手当普及員3名分の報酬及び共済費については、計画通りに予算執行ができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	・応急手当普及員:3名	目標	(3名)	(3名)	()	()	
		実績	3名	3名			
	・少年期教育や各種救命講習会の開催	目標	(1,000名)	(開催)	()	()	
		実績	1,326名	開催			
・コンビニエンスストアへのAED設置 新規1店舗への設置	目標	(22ヶ所)	(1ヶ所)	()	()		
	実績	18ヶ所	1ヶ所				
達成状況説明	平成28年度同様、専属の応急手当普及員を配置、市民を対象に定例救命講習会、出前救命講習会を実施。定例講習会では普通救命講習Ⅰと上級救命講習に加え、これまで出前救命講習でしか行っていなかった普通救命講習Ⅲを新たに開催することで、子供を持つ家族をはじめとした更に幅広い層に受講してもらうことができた。AED設置については、さらなる救命率の向上に向け、新規コンビニエンスストアへの設置が完了している。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	各種救命講習会の受講者数:1,000人/年	目標	()	(1,000名)	(1,000名)	()	()
		実績		1,326名	1,608名		
	コンビニエンスストアへのAED設置の完了	目標	()	(22ヶ所)	(1ヶ所)	(-)	()
		実績		18ヶ所	1ヶ所		
	【H30成果目標】救命講習受講者数	目標					1,500人
進捗状況説明	講習会未受講の市民に受講してもらうため、宮古島市の広報誌へ募集記事の掲載や、市役所や商業施設・公共施設等へ案内ポスター配布等の広報活動を強化し、また不慮の事故等から緊急事態に陥りやすい乳幼児を持つ家庭の方を対象にした講習会を定例講習会に組み込むことで、幅広い受講者を募ることができた。さらに、緊急時に適切な対応を行うためには講習会の定期的な受講が必要であることや、過去に受講した事業所、特に救急事象が発生しやすいと思われる介護事業所や学校教育機関へ再受講の案内を強化したことで目標の1,000名を大きく超える1,608名の受講者となった。AEDについては、新たに営業するコンビニエンスストアに1基設置し、市内の全19ヶ所への設置が完了し、設置率100%となっているため、目標は達成していると考えている。(H28年度には統廃合により全22ヶ所→全18ヶ所)						

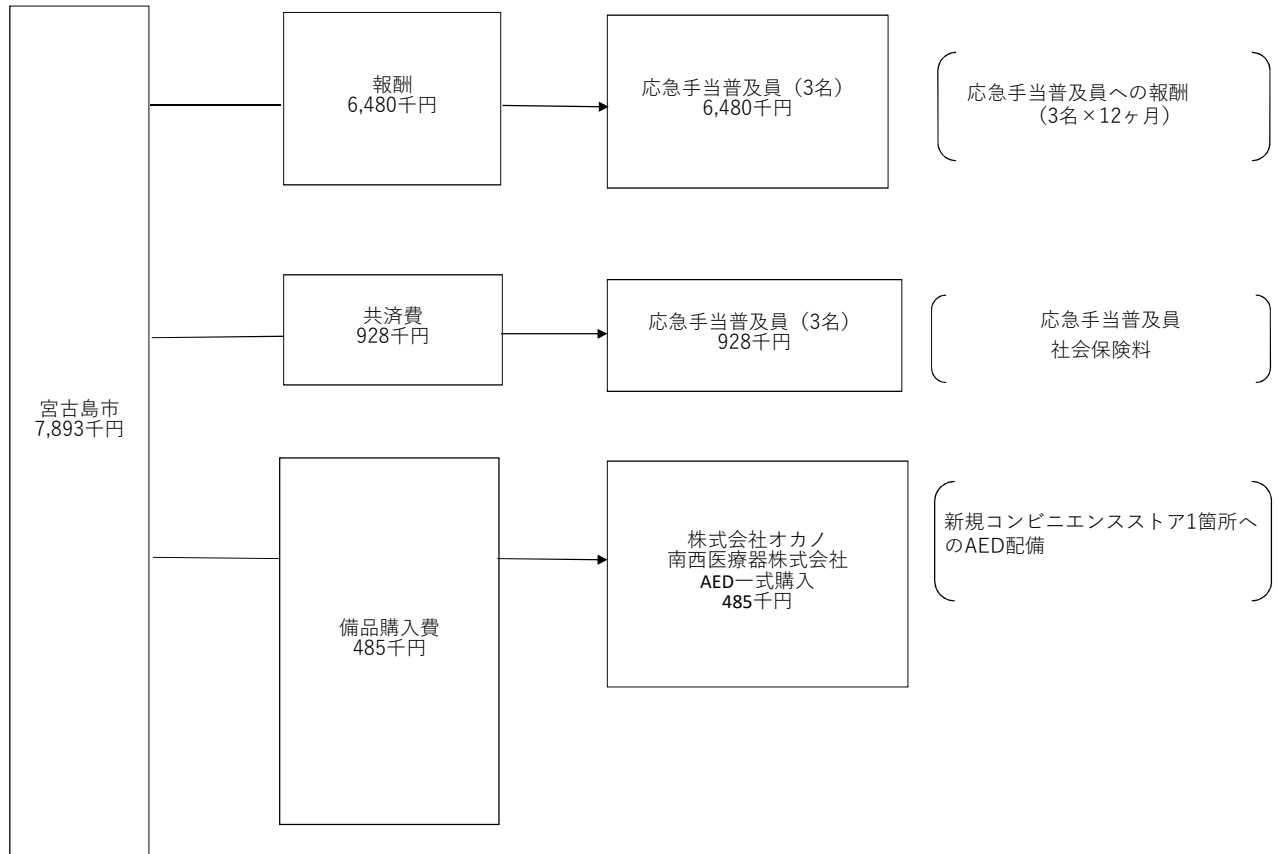
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	観光客や市民に重篤な傷病者が発生した際は、現場に居合わせた方が適切な救命処置を施せることが重要であるが、事業開始間もないため現時点においては、万全の体制が構築されているとは言えない。また、心肺蘇生法は一度の講習で身につく物ではないため、定期的に受講することが必要である。	一人でも多くの市民が適切な救命処置が行えるように市民の自主防災意識の向上を促す啓発等と併せて講習会への定期受講の呼びかけが必要である。

今後の取り組み方針

昨年に引き続き、地元メディアや市広報誌、学校、自治会等への広報活動を強化し受講者の拡大を目指す。定期的な受講の呼びかけを働きかけることで救命率、社会復帰率の向上を期待する。また、各種事業所へ足を運び応急手当及びAEDの必要性を強く訴えて設置啓発を図り、市民の自主防災意識向上を推進し、多くの市民が不測の事態に備え適切な救命処置が行えるようにしていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,893	7,893	6,315	1,578	0



資金の流れ・点検・評価目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○備品購入についてはH28年度に物品売買契約を済ませており新規店舗に設置するAEDも含めて一括集中監視・管理が可能となる為、随意契約とした。救命講習普及員については有資格者を募集採用しているため、妥当であった。 ○事業の適切な運営に伴い、予算執行も適切に行われた。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-②	水難救助体制強化整備事業					
担当部署名	消防本部 総務課	事業実施(予定)年度 平成29～30年度					
		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所					
		沖縄振興基本方針該当箇所					
		第3章-3-(2)-ウ					
		観光客の受入体制の整備					
		Ⅲ-9					
事業内容	入域観光客数の増加に伴い発生が懸念される水難事故等へ対応するため、水難救助資器材を導入し救助体制を強化する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(31年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,566				
		(b)予算現額	4,566				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	4,566				
	B.執行済額		4,428				
	うち交付金充当額		3,542				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		97.0%				
予算の状況の説明		事業計画通りに備品購入費を執行できた。不用額138千円については、入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	水難救助資器材10件の導入		目標 (資器材10件導入)	()	()	()	
			実績	資器材10件導入			
達成状況説明	水難救助資器材10件を導入し、現用の資器材と併せることで、隊員の安全管理及び迅速、且つ効率的な救助活動が可能となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
			目標	()	(資器材10件の導入完了)	()	()
	水難救助資器材10件の導入完了		実績		資器材10件の導入完了		
	【H31成果目標】 本水難救助車と災害支援車を活用した水難救助訓練の実施(33回/年)による、水難救助車等の活用方法の検証。		目標				33回
	進捗状況説明	水難救助資器材を購入し隊員への資器材取扱説明及び訓練を実施、運用を開始した。運用開始後も、実災害を想定した訓練を引き続き行い、平成30年度に導入する水難救助車・災害支援車と併せた形で水難救助体制の強化を図る。					

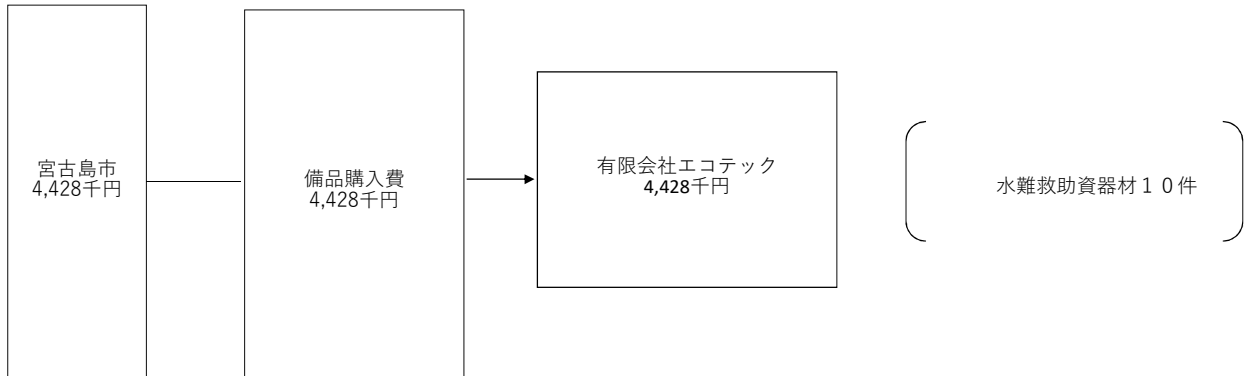
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>昨今の観光客の急激な増加に伴って水難事故等も増加傾向にあり水難救助体制の強化が喫緊の課題となっている。観光客や市民の水難事故等に迅速に対応するためには、海上保安部及び警察等の関係機関の協力を要する。また、水難事故防止の取組も必要である。</p>	<p>安心・安全・快適な観光地を実現するためには海上保安部及び警察等各関係機関と常に連携を密にし、併せて、水難事故防止啓発活動を行う必要がある。</p>

今後の取り組み方針

平成30年度に水難救助車・災害支援車を配備し、更なる救助体制の強化を目指す。また、来島する観光客へ水難事故防止の啓発活動を行い、水難救助隊と各関係機関との情報共有や合同訓練を実施し、スムーズな救助活動に繋げる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,428	4,428	3,542	886	0



資金の流 れ、費目・ 点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○業者の選定及び入札等は指名競争入札により決定しており妥当であったと考えている。 ○予算規模については、見積もりを徴取して積算しており適正な規模であった。 ○費目・用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市
------	------

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-①	課題を抱える児童生徒の支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
				Ⅲ-3-(1)

事業内容
 生徒指導上課題のある児童生徒の生活環境改善のため、個々に応じた支援の充実に向け、教育委員会にスクールソーシャルワーカーを配置する。また、課題を抱えた児童生徒が在籍する学校に、適切な指導・支援の取組強化のための問題行動学習支援員を配置する。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	11,768	14,987	14,962	14,960	15,068
	(b) 予算現額	11,768	14,987	14,962	14,960	13,912
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲ 1,156
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	11,768	14,987	14,962	14,960	13,912
	B. 執行済額	10,225	14,319	13,823	14,757	13,621
	うち交付金充当額	8,180	11,455	11,057	11,805	10,897
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	86.9%	95.5%	92.4%	98.6%	97.9%
予算の状況の説明	問題行動等学習支援員の賃金については、3名を対象生徒のいる学校に配置し適切に執行された。スクールソーシャルワーカーの報酬について、4月~6月までの間は人員不足により3月補正で予算1,156千円減額した。7月からは計画通り6名を配置し、子どもへの支援を行い予算は適正に執行された。					

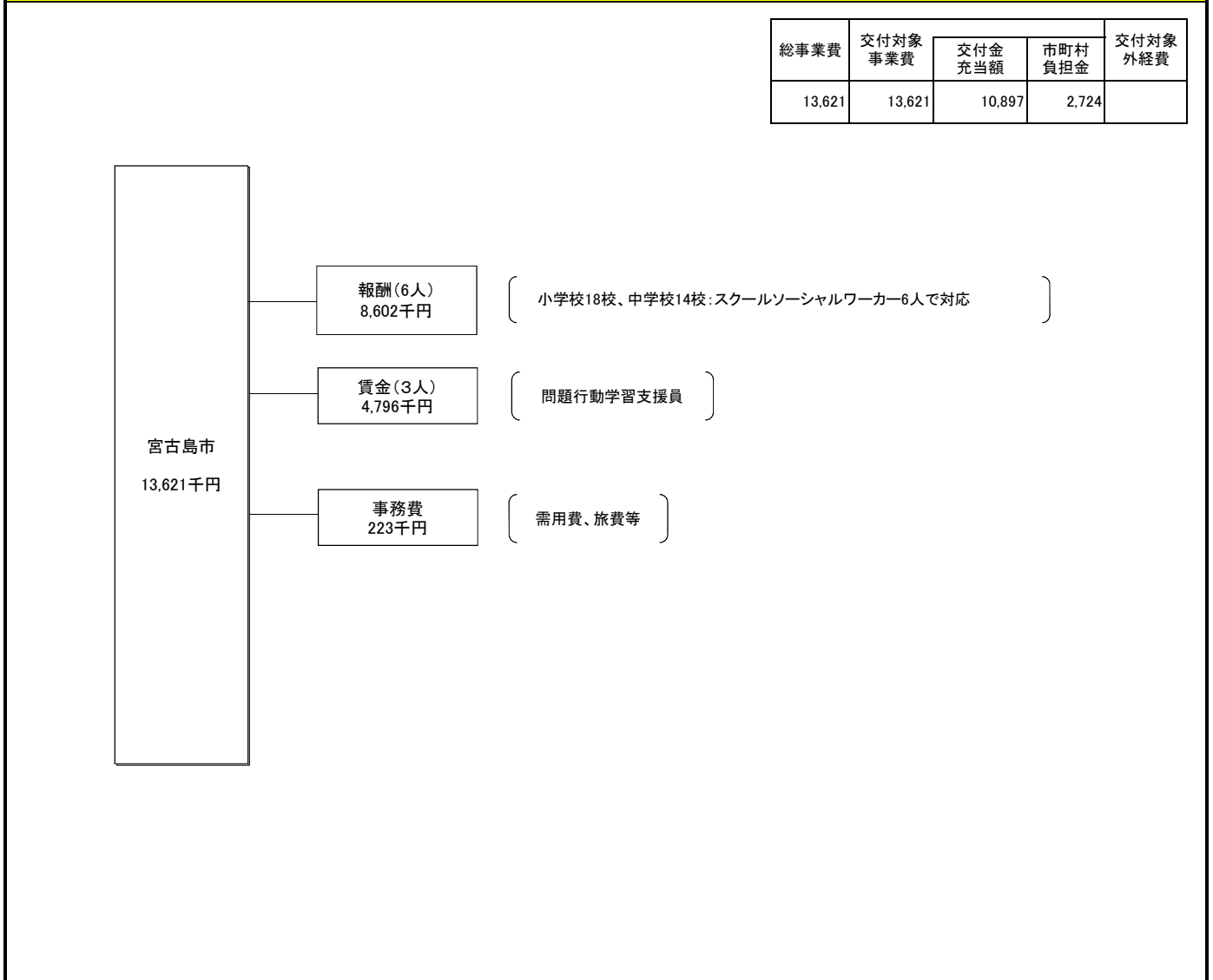
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
		スクールソーシャルワーカーの配置	目標 (4人配置)	(6人配置)	(6人配置)
	実績	4人配置	6人配置	6人配置	6人配置
	問題行動等学習支援員の配置	目標 (3人配置)	(3人配置)	(3人配置)	(3人配置)
	実績	3人配置	3人配置	3人配置	3人配置
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続きスクールソーシャルワーカー6名、問題行動等学習支援員3名を配置した。 ・スクールソーシャルワーカーは市内32校(小学校18、中学校14)に1人4~6校の分担で配置、支援を要する児童生徒の生活環境の改善を図り働きかけを行った。 ・問題行動等学習支援員は市内中学校4校に3名配置し、問題行動等の生徒の教育相談及び学習支援を行った。また、学校長及び生徒指導主任の指示により、登校支援及び体験活動の支援などを行った。 				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)	
		不登校児童生徒復帰率50%以上(のべ復帰者/のべ不登校者)	目標 ()	(50%以上)	()	()	()
			実績	35%			
			目標 ()	()	()	()	()
	実績						

進捗状況説明
 ・不登校児童生徒数51名(小学校15名、中学校36名)中、学校復帰をした児童生徒数18名(小学校0名、中学校18名)。このうち問題行動等学習支援員配置校においては17名学校復帰をはたすなど学校の生徒指導体制のもと不登校及び登校しぶりの生徒に対して個別課題に応じて支援を行った。
 ・生徒との信頼関係を構築しながら、不登校生徒の登校支援、学校における居場所の確保など生徒の抱える課題に対して、生徒指導主任の助言や学級担任との連携を図って個別の対応を実践した。
 ・スクールソーシャルワーカーによる生徒児童や保護者への支援、関連機関との連携が不登校の早期対応、学校復帰につながっている。学校において支援員、スクールソーシャルワーカーが機能的に活用され効果が出ている。

推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）		改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	<p>①不登校は29年度は前年度から4人減になっているが小学校で2倍近く増加している。要因として、これまで欠席の理由を病欠やその他（親の教育方針等）から積極的に不登校と判断し、本人や家庭に対応をしようとする学校の対応の変化がある。</p> <p>②貧困問題等や支援が必要な保護者が多く、子どもを学校に行かせない保護者も増えている。</p> <p>③スクールソーシャルワーカーの資質向上のための大学等研究機関や研修会などへの参加が離島のため限定的である。</p>	<p>①積極的に不登校と判断し、スクールソーシャルワーカーの専門的な意見を学校が取り入れ、連携をさらに強化することで更に改善が図れる。</p> <p>②学校や、福祉事務所等関連機関と連携を密にすることで問題を抱える児童生徒の家庭へきめ細やかな対応を行う必要がある。</p> <p>③研修会等への参加機会を多くし、スクールソーシャルワーカー、問題行動等学習支援員の資質向上を図る。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>①学校との連携がスムーズにいくように学校訪問による事業の周知と生徒指導研修会、校長研修会、教頭研修会などで、効果的な連携支援について推進していく。</p> <p>②連携を必要とする福祉部や保健部等、医療や警察など関係機関連絡会の開催を通して、宮古島市全体の子供の状況を共有化し連携を強化する。また、問題行動等学習支援員、スクールソーシャルワーカーの学校の現状に応じた効果的な派遣を図る。</p> <p>③スクールソーシャルワーカーによる事例検討会、講習会等への参加を増やしてスクールソーシャルワーカーの資質向上を図る。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○長期実績を踏まえたSSW配置人数は適正で、その報酬額は本市要綱に基づき予算化しており、事業内容に見合った適正規模であったと考える</p> <p>○費目、使途については、報酬をはじめ、SSWの資質向上にむけた研修会派遣など、事業目的達成の観点から真に必要であったと考える</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-②	選手派遣支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア	
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所		教育機会の拡充	
事業内容	本市の児童生徒がスポーツ、文化活動において地区選抜代表選手として県大会や全国大会へ派遣される際の旅費を補助する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	20,355	15,591	15,590	15,198	16,121
		(b)予算現額	17,581	15,591	16,600	15,198	16,121
		(c)増減額(b-a)	▲ 2,774	0	1,010	0	0
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	17,581	15,591	16,600	15,198	16,121
	B. 執行済額		12,595	13,020	15,985	13,467	16,095
	うち交付金充当額		10,076	10,461	12,788	10,773	12,875
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		71.6%	83.5%	96.3%	88.6%	99.8%
予算の状況の説明		すべての補助申請に対応することができ執行率は99.8%であり的確な予算立て、執行ができています。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	地区選抜代表選手として県大会や全国大会へ参加する児童生徒の派遣旅費の支援		目標 (1,944人)	(児童生徒の大会派遣)	(児童生徒の大会派遣)	(児童生徒の大会派遣)	
			実績 1712人	児童生徒の大会派遣	児童生徒の大会派遣	児童生徒の大会派遣	
			目標 ()	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	スポーツや文化面で、地区代表選手等として県内及び県外大会へ派遣される児童生徒(延べ1,765人)に対し旅費を補助し、保護者の負担軽減を図った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	派遣費支援による保護者負担の軽減 大会等派遣申請者への交付率100%		目標 ()	(100%)	()	()	()
			実績	100%			
	【H30成果目標】 児童生徒が広い視野を持てたか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケートにより、本事業のあり方を検証する		目標				80%
	進捗状況説明	スポーツや文化面で、地区代表選手等として県内及び県外大会へ派遣される児童生徒(延べ1,765人)の申請者すべてに補助金を交付し、保護者の負担軽減を図った。					

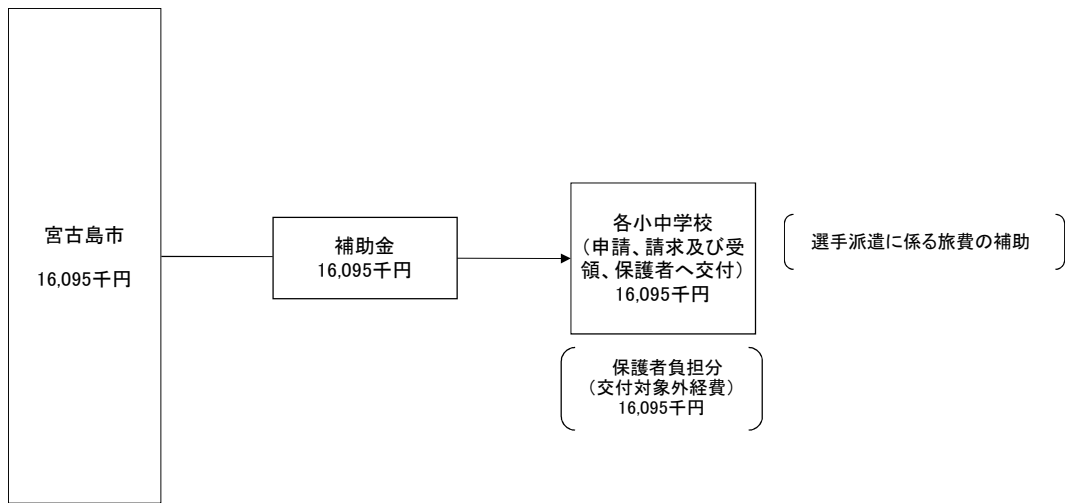
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 宮古島市立学校のスポーツ、文化活動を振興するため、対外行事・試合などの奨励に資するとともに、参加する児童生徒の派遣にかかる費用の保護者負担を軽減する目的で、代表選手等に対し航空運賃に係る費用の半額を補助した。 今年度も、延べ1,765人に対して補助し、保護者や学校等への周知も図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 当事業の活用については、申請する学校への周知を行うことでスムーズな事業運営が図られている。

今後の取り組み方針

・今後も引き続き小中学校へ事業の周知を行い、さらにスムーズな事業実施に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
32,190	16,095	12,875	3,220	16,095



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣される児童生徒を取りまとめる学校長を支出先とすることは適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○執行率は99.8%となっており適正な規模である
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○航空運賃に対する一部補助であり、受益者である保護者の負担もことから負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、交付要綱に基づいた目的に限定して検査及び交付している。

市町村名		宮古島市					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-① 博物館収蔵品目録等作成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(4)-エ		
	担当部署名	生涯学習部 総合博物館		事業実施(予定)年度 平成24~29年度		文化の発信・交流	
				沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-3-(2)	
事業内容		宮古島市総合博物館に収蔵されている資料の幅広い活用を図るため、収蔵資料の整理、データベース化、デジタル化及び図録等の作成を行う。					
効果発現年度		<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(30年度)					
実施方法		<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,584	3,744	5,022	3,762	3,978
		(b) 予算現額	4,584	3,744	4,563	3,474	3,978
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 459	▲ 288	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	4,584	3,744	4,563	3,474	3,978
	B. 執行済額		4,314	3,544	3,646	3,474	3,591
	うち交付金充当額		3,451	2,835	2,917	2,779	2,872
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		94.1%	94.7%	79.9%	100.0%	90.3%
予算の状況の説明		不用額387千円の内訳は報酬費99千円、印刷製本費の契約残288千円である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	美術・工芸品収蔵物の調査、資料整理 嘱託員2名		目標 (資料整理)	(目録誌作成)	(調査・資料整理 目録誌作成)	(調査・資料整理 目録誌作成)	
			実績 資料整理	目録誌作成	調査・資料整理 目録誌作成	調査・資料整理 目録誌作成	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明		嘱託員2名を雇用し、美術・工芸品資料目録作成に向け、531点の資料調査を行い、資料価値等の確認、目録誌を作成した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	自然編、歴史編、民俗編、美術・工芸編の目録作成に向け、6ヵ年計画(H24~H29年度)の中で、年度毎に目標整備率を設定。美術・工芸編の調査・整理。H29年度整備率(美術・工芸品目録誌作成300冊)100%		目標 (40%)	(80%)	(100%)	(100%)	()
			実績	80%	90%	67%	
	【H30成果目標】年間入館者数 15,000人		目標				15,000人
進捗状況説明		H29年度はH28年度事業を継続し、美術・工芸資料の調査・整理及び目録誌作成を行った。美術・工芸品収蔵登録総数642点の総ての調査・整理を行い、公表可能な531点の目録誌200冊を作成した。当初の計画では印刷製本を300冊としていたが、補助対象として100冊までしか認められなかった。そのため、補助対象100冊と補助対象外(市単独費用)100冊の計200冊を印刷製本するに止まった。					

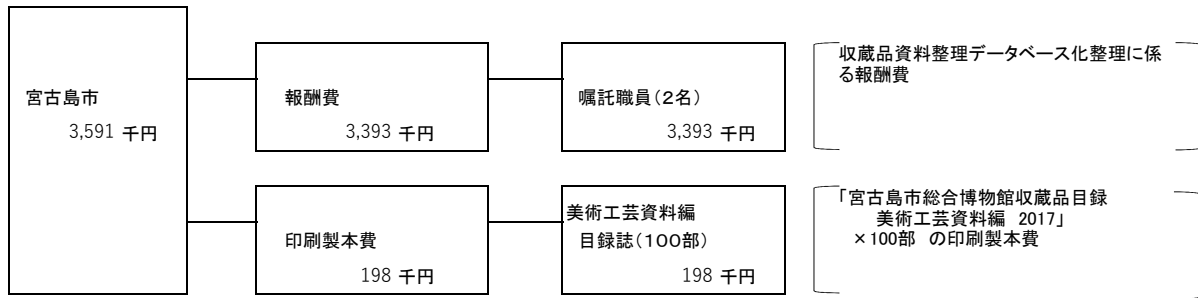
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>聞き取り調査などの経験及び編集能力の高い者を雇用し、一定の資料を作成することが出来た。</p> <p>しかし、美術工芸資料の調査研究は作品の持つ価値、歴史的背景など、専門性を有する知識が必要とされることから期間を要するため、収蔵品の調査研究は十分とは言えない状況である。</p>	<p>聞き取り調査などの経験及び編集能力の高い者を雇用し、一定の資料を作成することが出来た。</p> <p>収蔵品の調査研究については、継続する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

収蔵品の調査研究について、今後は、単独事業で継続し、住民への文化継承に繋げるよう取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,591	3,591	2,872	719	0



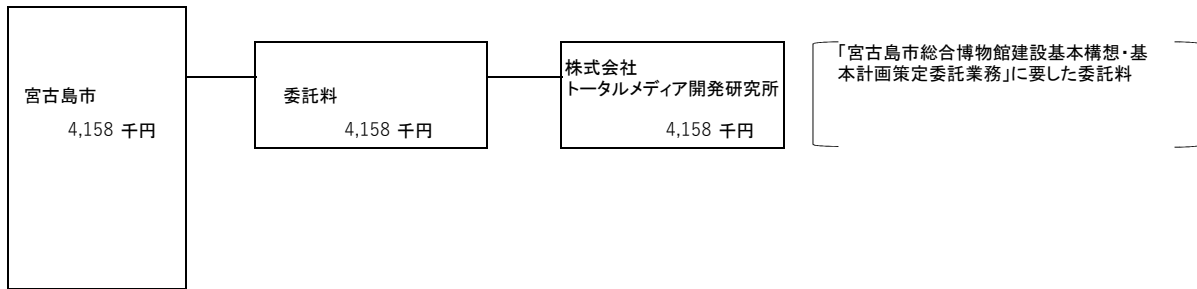
資金の 用途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○継続事業であったため、業務内容を熟知している嘱託職員を継続雇用した。</p> <p>○報酬額は本市の規定に基づき、予算化を行っており事業内容に見合った適正規模といえる。</p> <p>○予算は、事業目標達成に必要な報酬費に限定されており事業目標どおりである。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-②	博物館基本計画策定事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ウ	
担当部署名	生涯学習部 総合博物館	事業実施 (予定)年度	平成29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	文化活動を支える基盤の形成		
事業内容	宮古島市の歴史・自然・文化等の保存・収集・発信を行う総合博物館の機能強化、体制強化を図り、地域や観光客の声により応えることが出来る宮古島市総合博物館建設に向け、基本構想に基づいた基本計画を策定する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(30年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	14,600				
		(b)予算現額	4,158				
		(c)増減額(b-a)	▲10,442				
		(d)繰越額	—				
	A. 計(b+d)		4,158				
	B. 執行済額		4,158				
	うち交付金充当額		3,326				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		入札残が出たため3月補正で予算を10,442千円減額した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	博物館建設基本計画の策定	目標	(策定)	()	()	()	
		実績	策定				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	宮古島市総合博物館基本構想基本計画を策定した。						
H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	30年度	31年度	32年度	目標値 (30年度)
	博物館建設基本計画の完了	目標	(完了)	()	()	()	()
		実績	完了				
	【H30年度成果目標】 本事業にて策定された博物館基本計画を踏まえ、新たな総合博物館建設につなげる。		目標				
	進捗状況説明	宮古島市総合博物館基本計画は平成29年度内に策定を完了し、目標は達成された。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>基本計画は特に支障なく策定された。</p> <p>宮古島市の総合博物館は一定の目的は果たしているものの、歴史・自然・文化等の保存・収集・発信を行うには十分とは言えない現状にある。そのため、総合博物館の機能強化、体制強化を図り、地域や観光客の声により応えることが出来る宮古島市総合博物館建設に向けた基本計画策定を行った。</p> <p>新博物館建設にあたって、建築設計の段階で課題・問題点が発生することが予想される。建築設計は、用地の位置や形状・土質等の諸条件によって設計されるため、先ずは、基本計画に基づいた条件に合う用地選定が今後の課題となる。</p>	<p>課題となる用地選定は、用地選定委員会を設置し、そのなかで検討し解決する。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>平成29年度に策定された宮古島市総合博物館基本計画を基に、宮古島市総合博物館の建設事業を展開、推進する。</p> <p>また、今後宮古島市総合博物館建設事業を展開、推進していく上での問題点・改善余地については、建設委員会などを設置し、その中で検証・検討していく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,158	4,158	3,326	832	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○指名競争入札時に於いて予定価格と落札額とに隔たりが出たが、当初予算時点での積算は妥当であったと考えている。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市
------	------

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	9-①	「テレワーク@宮古島」推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(4)-ウ
担当部署名	企画政策部 情報政策課	事業実施(予定)年度	平成28~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				圏域の特色を生かした産業の振興
				Ⅲ-9

事業内容

離島における情報通信関連産業の振興並びに地場産業の新たな展開に向け、情報通信関連企業のサテライトオフィス誘致に向けた検討委員会の開催、企業訪問及び誘致活動を行う。
また、誘致事業者のサテライトオフィスとして利用するため既存施設の機能強化を行う。

効果発現年度 当年度 後年度(31年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	9,308	11,828			
	(b) 予算現額	9,308	20,335			
	(c) 増減額(b-a)	0	8,507			
	(d) 繰越額	-	-			
	A. 計(b+d)	9,308	20,335			
	B. 執行済額	6,525	18,067			
	うち交付金充当額	5,220	14,453			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率(%) (B/A)	70.1%	88.8%			
予算の状況の説明	・不用額(2,268千円)が発生しているが、概算契約で締結した委託業務における業務完了時の積算(△473千円)、「テレワーク@宮古島」機能強化工事に係る設計委託業務の入札残(△474千円)、また、検討委員会開催における経費(旅費については割引航空運賃を用いる△618千円)などの縮減に努めた結果であり、事業は計画の内容どおり実施されている。					

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		29年度	30年度	31年度	32年度
		・サテライトオフィス化実施設計業務の実施	目標 (実施)	()	()
	実績	実施			
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	誘致事業者のサテライトオフィスとして利用するため既存施設(下地庁舎3階部分)を選定し、施設機能強化における実施設計を行った				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)	
		・サテライトオフィス化実施設計業務の完了	()	(完了)	()	()	()
				完了			
	【H31成果目標】新規就業者4人以上	目標				4人	
進捗状況説明	誘致事業者のサテライトオフィスとして利用するため既存施設の施設機能強化における実施設計を完了した						

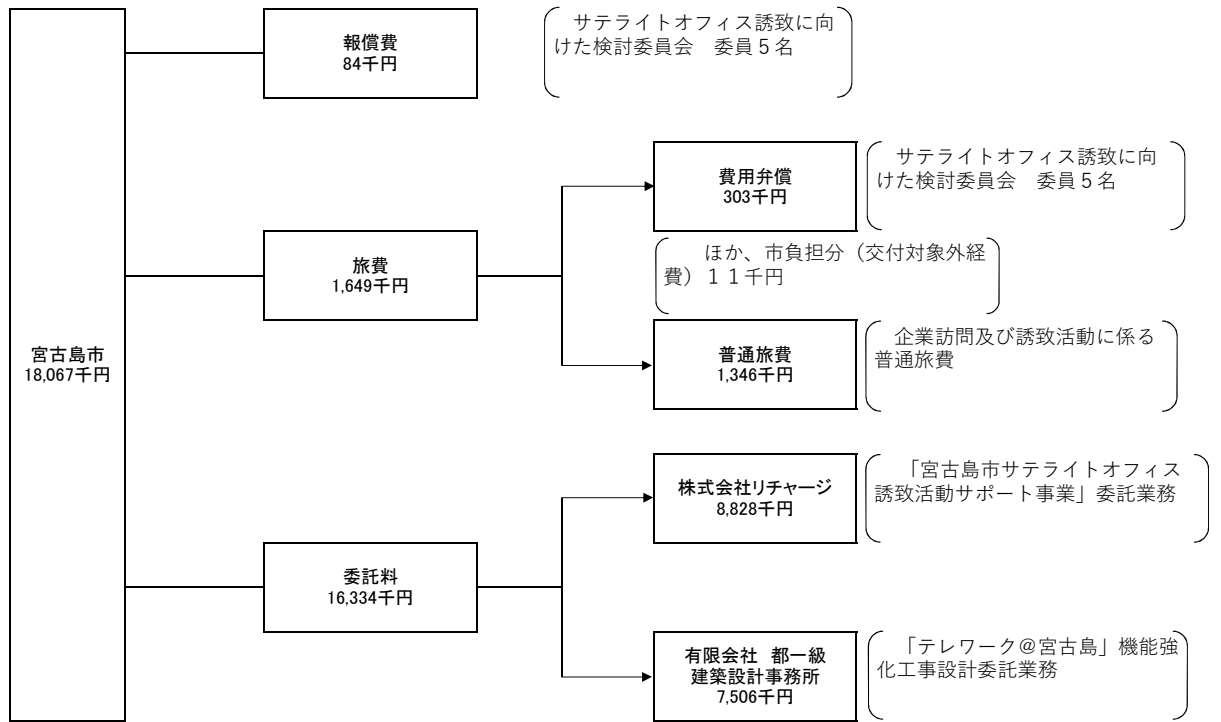
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	誘致企業ヒアリングにより、以下の課題が判明した。 ①島内企業とのマッチング、地域交流、イベント等のサポートなど、進出企業へのサポートが必要 ②施設周辺の飲食店の不足 ③入居企業の移動手段の確保などの課題解決も必要	①入居に関心がある企業に対してのフォローアップ及びサポート体制を構築する。 ②飲食店の不足については地元自治会等と連携し階ロビーにワゴン販売などの設置を検討する。 ③移動手段についてはの確保免許を取得していない方向へのシェア自転車の確保、シェアレンタカーの確保などを行う。

今後の取り組み方針

- ①進出企業の受け入れ体制を構築し、総合的なサポート窓口を設置
 ②飲食店の不足に関しては、地元自治体などと協議しワゴン販売等の設置を検討
 ③シェア自動車については地元ディーラーと連携し確保に向けて取り組みを行う、シェア自転車については地元サイクル店や誘致企業と連携し、確保に向けて取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,078	18,067	14,453	3,614	11



資金の流れ、費目、点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は「宮古島市サテライトオフィス誘致活動サポート事業」委託業務においては、公募型プロポーザル方式、「テレワーク@宮古島」機能強化工事設計委託業務においては、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は複数事業者より、見積書を出して頂き、積算を行っている為、適正な規模になるよう努めている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係は業務に対する委託料なので妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○業務委託に関しては、出来高での支払になっており必要な金額を精査し支払を行っている為、必要なものに限定されている。

市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-②	高等教育機関の設置検討事業					
担当部署名	企画政策部 企画調整課	事業実施(予定)年度 平成28~29年度					
		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所					
		沖縄振興基本方針該当箇所					
		第5章-3-(4)-エ					
		生活圏の充実					
		Ⅲ-9					
事業内容	宮古島市における高等教育機関の設置に向け、設置分野を決定するための検討委員会の実施、平成28年度事業で設置意向を示した学校法人への詳細調査を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(31年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,804	7,344			
		(b) 予算現額	6,804	7,344			
		(c) 増減額(b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	-	-			
		A. 計(b+d)	6,804	7,344			
		B. 執行済額	5,106	6,921			
		うち交付金充当額	4,805	5,537			
		次年度繰越額	0	0			
		執行率(%) (B/A)	75.0%	94.2%			
予算の状況の説明	不用423千円は、業務委託を公募型プロポーザル方式にて実施し、事業者からの企画提案額にて契約を締結したことにより、旅費や印刷製本費が減額となったためであり、適正な業務執行を踏まえた結果である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	・設置する分野の決定に向けた検討委員会の開催	目標	(委員会の開催)	()	()	()	
		実績	委員会の開催				
	・設置意向を持つ学校法人への詳細調査の実施	目標	(調査の実施)	()	()	()	
実績		調査の実施					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・設置検討委員会を組織し、宮古島市に設置実現を図る分野を決定した。(4回の委員回開催) ・平成28年度の調査において、宮古島市への高等教育機関設置の意向を示した22の学校法人へ直接ヒアリングを含む詳細調査を実施し、設置する場合の条件を把握した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
	・設置実現を図る分野の決定	目標	()	(分野の決定)	()	()	()
		実績		分野の決定			
	・学校法人が本市へ高等教育機関を設置する場合の条件の把握	目標	()	(条件の把握)	()	()	()
		実績		条件の把握			
【H31成果目標】 実証を行う高等教育機関1校以上	目標					1校	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・設置検討委員会において、「看護」「リハビリテーション」「観光」「語学」の4つを、設置を図る分野として決定した。 ・学校法人への詳細調査により、宮古島市に設置する際の条件として「リスク軽減にかかる支援」「コスト負担軽減にかかる支援」「地域との協働」の3点が把握された。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>(分野の決定) 設置検討委員会を、教育関係者、地元経済団体、民間事業者、行政など様々な分野からの構成としたことで、幅広い視点からの意見および議論が反映される結果となった。</p> <p>(条件の把握) 学校法人へのヒアリングは、始めに電話調査から開始し、直接訪問ヒアリングへと段階的に実施したことで、よりポイント絞った条件把握が可能となった。</p>	<p>(分野の決定) 4つの分野を決定したが、単独のみでなく「リハビリテーション+観光」「観光+語学」など分野を複合した設置も考えられるため、設置意向を示す学校法人への意見交換を継続しつつ、検討を進める必要がある。</p> <p>(条件の把握) 把握された条件を基に、高等教育機関の設置実現に向けて、設置意向を示す学校法人への意見交換を継続しつつ、設置条件の課題を解消を進める必要がある。</p>

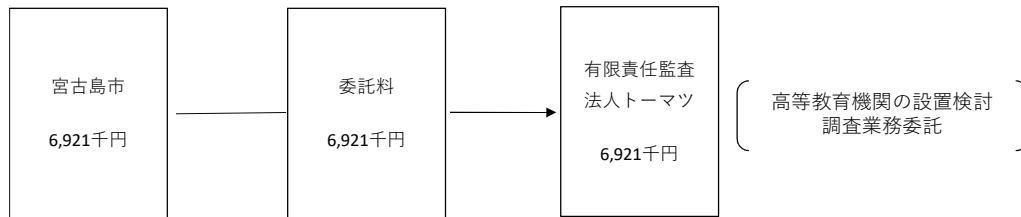
今後の取り組み方針

(分野の決定)
決定した4つの分野を基軸として、より本市に望ましい分野を絞り込み、高等教育機関の設置実現について取り組んでいく。

(条件の把握)
把握された設置条件である、「リスク軽減にかかる支援」「コスト負担軽減にかかる支援」「地域との協働」の課題解消に向けて、必要基盤の整理や実現性検証の検討等に取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,921	6,921	5,537	1,384	0



資金の 用途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は公募プロポーザル方式にて実施し、公平かつ公正な決定により執行している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模においては、複数事業者より見積書を徴し積算を行う等、適正な規模の確保に努めている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○業務委託は概算契約により締結し、完了時に事業対象となる経費のみ精算しており、必要な用途に限定している。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-①	地下水保全調査事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(4)-エ	
担当部署名	上下水道部 水道総務課	事業実施(予定)年度	平成29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活基盤の充実		
事業内容	<p>地下水を唯一の淡水資源とする本市では、水道水源の保全が社会の成立要件となっていることから、持続的な社会を構築するため、地下水を保全に取り組みための空洞調査、塩水進入状況等調査を行う。</p> <p>①白川田湧水地付近の空洞状況調査事業 ②平良地下水流域の塩水進入状況等調査事業</p>						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(31年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	104,328				
		(b) 予算現額	98,388				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 5,940				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計(b+d)	98,388				
	B. 執行済額		98,388				
	うち交付金充当額		78,710				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		入札残が出たため3月補正で予算を5,940千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	①白川田湧水地付近の空洞調査	目標	(完了)	()	()	()	
		実績	完了				
	②平良地下水流域の塩水進入状況等調査	目標	(完了)	()	()	()	
		実績	完了				
達成状況説明	<p>①白川田湧水地付近の空洞調査については、今回の調査においては空洞は確認できなかったが、ボーリング調査を追加し、断層や流域界付近での水理地質構造の精度向上に努めた結果、断層それに伴う鳥尻層群泥岩分状況が白川田水源の湧水を大きく規制していることがわかった。</p> <p>②平良地下水流域の塩水進入状況等調査については、平良地下水流域を当初計画の通り調査を実施したが、想定していた調査範囲外にまで広がる大きな地下水盆地であることが考えられることがわかった。ニヤーツ水源の保全のためには、今後未調査区域の調査を行い流域界を明確にする必要がある。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
	①白川田湧水地付近の空洞調査 ②平良地下水流域の塩水進入状況等調査における報告書の策定	目標	()	(策定)	()	()	()
		実績		策定			
	【H31成果目標】 平良地下水流域の水道水源保全地域を設定するための取組に繋げる		目標				
	進捗状況説明	<p>①白川田湧水地付近の空洞調査は、流域内陸部まで空洞が広く分布し、その空洞に貯留された地下水がオーバーフローするパイプ流的なメカニズムが推測されていた。このような空洞が存在した場合、琉球石灰岩の陥没事故に繋がる恐れがあると共に、陥没により空洞が閉塞されることで必要水量が確保できなくなる事が懸念されていた。また、調査の過程で白川田水源の湧水のメカニズムがこれまで想定していたものと異なる可能性が高まったことから、湧水のメカニズムを把握するための調査を行った。その結果、新たな断層が確認され、白川田湧水は自然が形成した地下ダム的なメカニズムで多量の地下水が湧水しているものと考えられる。との調査結果をまとめた。</p> <p>②平良地下水流域の塩水進入状況等調査においては、平良地下水流域はこれまで、2条の谷筋が想定されていたが、流域全体として一つの大きな谷形状であることが明らかになった。今後の取り組みとしては、未調査部分の継続調査を行い、水理地質構造、地下水流動実験及び塩水進入状況を把握し、今後の水道水源保全地域の設定の可能性、並びにニヤーツ水源地の保全の方法について検討を行う必要がある。として報告書の策定を行った。</p>					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①白川田湧水地付近の空洞調査について、今回の調査においては空洞は確認できなかったが、ボーリング調査を追加し、断層や流域界付近での水理地質構造の精度向上に努めた結果、断層それに伴う島尻層群泥岩分状況が白川田水源の湧水を大きく規制していることがわかった。</p> <p>②平良地下水流域の塩水進入状況等調査において、平良地下水流域は、調査の結果想定していた調査範囲外にまで広がる大きな地下水盆であることが考えられる。ニヤーツ水源の保全のためには、未調査区域の調査を行い流域界を明確にする必要がある。</p>	<p>①白川田湧水地付近の空洞調査については、新たな断層が確認されたが、今後においてその断層をボーリング調査等により行う必要があるかの検討を行う。</p> <p>②平良地下水流域の塩水進入状況等調査については、ボーリング調査の力所の増加を行い塩水化の状況を継続的に監視する必要がある。</p>

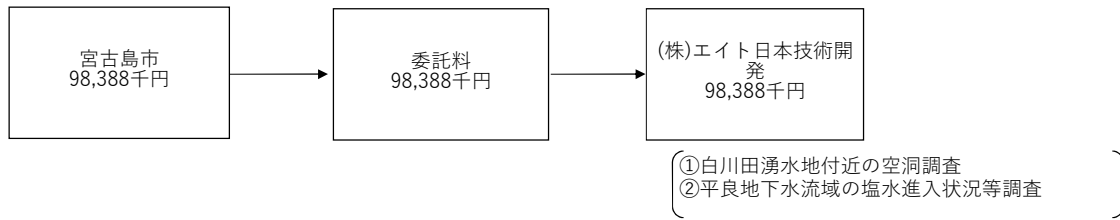
今後の取り組み方針

①白川田湧水地付近の空洞調査については、2条の新たな断層が確認され、自然の形成した地下ダム的なメカニズムが判明し、空洞は確認されなかった。そのため、空洞の閉塞の危険性が低くなったことから、有識者委員会において、今後の調査の優先順位を後続とする事とした。そのため今後の調査は優先順位の高くなった。

②平良地下水流域の塩水進入状況等調査を継続して行う事とし、同地下水流域の塩水の進入状況及び全体の構造を明らかにし、流域界を明確にすることとする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
98,388	98,388	78,710	19,678	0



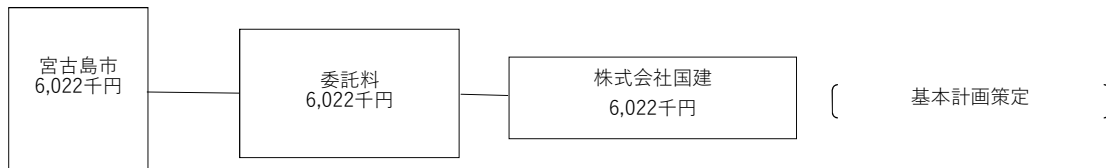
資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○専門的な調査内容であり、適正であると考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○本事業の受注コンサルタントはこれまで宮古島の地質及び地下水について調査実績が豊富である。その調査結果は唯一の淡水資源とする本市においては、市民生活、観光サービス、その他の産業を支えるため、水道原水となる地下水の保全は必要不可欠であるため、今後においても継続調査を行う必要がある。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	11-①	平良港総合物流センター整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(1)-イ		
担当部署名	建設部 港湾課	事業実施(予定)年度	平成29~32年度	沖縄振興基本方針該当箇所	人流・物流を支える港湾の整備		
事業内容	平良港において近年増加する取扱物流量に対応できるようにするため、平良港総合物流センターを整備するための基本計画を策定する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(33年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	6,362				
		(b)予算現額	6,362				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	6,362				
	B.執行済額		6,022				
	うち交付金充当額		4,817				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		94.7%				
予算の状況の説明		不用額340千円については委託の入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	総合物流センター基本計画策定業務の実施	目標	(基本計画策定)		()	()	
		実績	基本計画策定				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	施設規模を検討し、基本計画を策定した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(33年度)
	総合物流センター基本計画策定業務の完了	目標	()	(基本計画策定)	()	()	()
		実績		基本計画策定			
	【H33成果目標】取扱物流量	目標					132千t
		進捗状況説明	総合物流センター施設規模を検討し、基本計画(計画場所、建築計画、構造計画、電気設備計画、機械設備計画、概算事業費)を策定した。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	面積算定において、必要面積を算出し目標を満足する整備面積とした。	H30年度基本設計時においてさらなる精査を行う。
今後の取り組み方針		
平成30年度に基本設計、平成31年度に実施設計、平成32年度に本体工事をを行い平成33年4月に供用開始を予定している。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,022	6,022	4,817	1,205	0



資金の流 れ、費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費用は事業費の5.7%であり適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○	○不用額		